



茨城県

# 茨城県景気ウォッチャー調査

(平成19年12月調査分)

## 《景気の現状判断DI》

	平成19年9月	平成19年12月	前回調査比
茨城県	47.4	<b>40.4</b>	△7.0
県北地域	47.5	<b>40.9</b>	△6.6
県央地域	45.3	<b>35.9</b>	△9.4
鹿行地域	50.8	<b>43.3</b>	△7.5
県南地域	50.0	<b>43.6</b>	△6.4
県西地域	43.6	<b>38.3</b>	△5.3

## 《景気の先行き判断DI》

	平成19年9月	平成19年12月	前回調査比
茨城県	50.6	<b>36.2</b>	△14.4
県北地域	53.8	<b>34.5</b>	△19.3
県央地域	47.0	<b>34.5</b>	△12.5
鹿行地域	50.4	<b>37.1</b>	△13.3
県南地域	53.6	<b>39.5</b>	△14.1
県西地域	48.3	<b>35.4</b>	△12.9

平成19年12月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

## 目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
(1)	景気の現状判断D I	3
(2)	景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
(1)	景気の現状判断D I	5
(2)	景気の先行き判断D I	7
3	回答率	10
III	景気の判断理由	11
1	景気の現状判断理由	11
2	景気の先行き判断理由	21
3	その他の意見	31

# 調査の概要

## 1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

## 2 調査の範囲

### (1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。 ※平成19年12月31日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

### (2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

#### 【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	体	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等			38	39	38	37	36	188
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業			17	16	17	18	19	87
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等			5	5	5	5	5	25
		計		60	60	60	60	60	300

## 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) の理由
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

## 4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成19年12月調査の調査期間は平成19年12月13日から平成20年1月10日である。

## 5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数 (D I) は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

### 景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気動向指数 (D I) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

### 2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$  となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

# 調査結果の概要

## 1 全県の動向

### (1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは40.4となった。「良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、9月調査分より7.0ポイント低下し、横這いを表す50を2期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

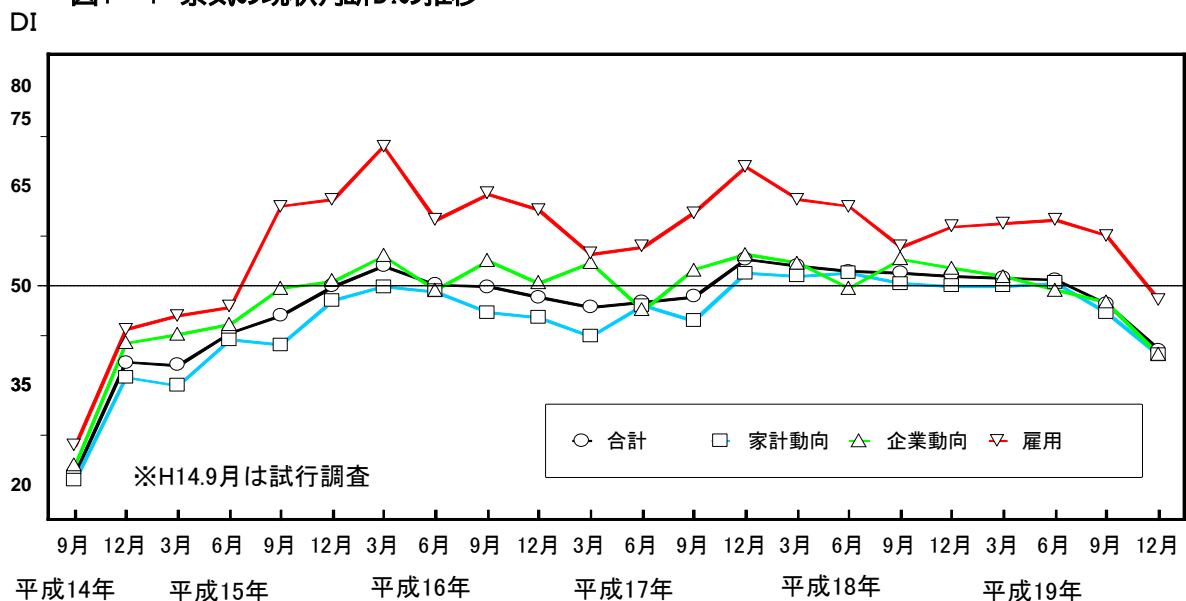
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年
		12月	3月	6月	9月	12月
<b>合計</b>		<b>51.7</b>	<b>51.3</b>	<b>51.0</b>	<b>47.4</b>	<b>40.4</b>
<b>家計動向関連</b>		<b>50.1</b>	<b>50.1</b>	<b>50.6</b>	<b>46.0</b>	<b>39.7</b>
小売関連		47.1	49.2	51.1	48.6	38.4
飲食関連		56.9	55.0	47.5	45.0	37.5
サービス関連		51.9	49.0	50.3	42.5	40.6
住宅関連		44.4	55.6	55.6	58.3	47.2
<b>企業動向関連</b>		<b>52.7</b>	<b>51.5</b>	<b>49.4</b>	<b>47.7</b>	<b>39.8</b>
農林水産業		53.1	46.9	50.0	56.3	37.5
製造業		52.8	49.4	50.0	46.3	38.3
非製造業		52.5	55.6	48.4	47.7	42.5
<b>雇用関連</b>		<b>59.0</b>	<b>59.4</b>	<b>60.0</b>	<b>57.6</b>	<b>48.0</b>

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成18年12月	3.2%	26.5%	48.4%	17.7%	4.2%
平成19年3月	1.4%	27.3%	51.1%	15.5%	4.7%
平成19年6月	2.1%	25.0%	51.0%	18.8%	3.1%
平成19年9月	3.8%	16.8%	49.1%	25.8%	4.5%
平成19年12月	1.4%	17.2%	35.1%	34.4%	11.9%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



## (2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは36.2となった。「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、9月調査分より14.4ポイント低下し、横這いを表す50を2期ぶりに下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

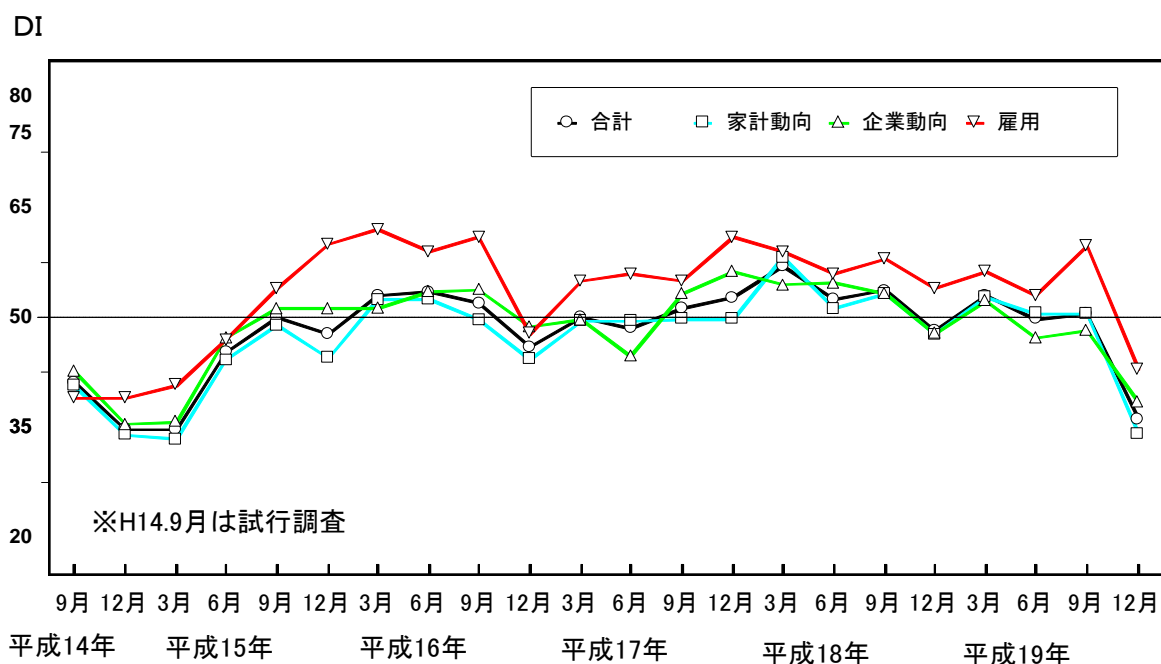
表1 - 3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成18年 12月	平成19年 3月	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月
合計	48.3	53.0	49.9	50.6	36.2
家計動向関連	47.7	52.8	50.7	50.6	34.2
小売関連	48.2	53.1	48.6	47.2	35.2
飲食関連	47.2	52.5	45.0	55.0	36.3
サービス関連	47.8	52.6	54.1	52.5	31.2
住宅関連	44.4	52.8	50.0	50.0	47.2
企業動向関連	47.9	52.4	47.3	48.3	38.6
農林水産業	53.1	53.1	50.0	53.1	40.6
製造業	46.6	52.8	45.5	46.8	37.8
非製造業	48.3	51.6	49.2	49.2	39.2
雇用関連	54.0	56.3	53.0	59.8	43.0

表1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成18年12月	1.8%	14.8%	60.8%	20.1%	2.5%
平成19年3月	1.1%	27.0%	56.8%	12.9%	2.2%
平成19年6月	2.1%	21.5%	55.9%	14.9%	5.6%
平成19年9月	3.4%	23.4%	49.5%	19.6%	4.1%
平成19年12月	0.0%	8.4%	42.5%	34.7%	14.4%

図1 - 2 景気の先行き判断DIの推移



## 2 地域別の動向

### (1) 景気の現状判断DI

#### 県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは40.9となった。9月調査分より6.6ポイント低下し、横這いを表す50を3期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		52.2	51.4	48.2	47.5	40.9
家計動向関連		47.8	50.8	45.8	44.7	38.6
企業動向関連		58.8	50.0	50.0	51.5	44.1
雇用関連		60.0	60.0	60.0	55.0	45.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年12月	0.0%	33.9%	46.4%	14.3%	5.4%
平成19年3月	0.0%	27.8%	55.6%	11.1%	5.6%
平成19年6月	0.0%	15.8%	63.2%	19.3%	1.8%
平成19年9月	3.3%	20.0%	46.7%	23.3%	6.7%
平成19年12月	0.0%	18.2%	41.8%	25.5%	14.5%

#### 県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは35.9となった。9月調査分より9.4ポイント低下し、横這いを表す50を2期連続で下回った。また、現状判断DIは全県を通じて最も低かった。更に、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、雇用関連DIは横這いだったものの、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは9月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		50.4	52.3	50.9	45.3	35.9
家計動向関連		50.7	54.3	51.3	45.9	34.7
企業動向関連		46.4	44.6	48.3	42.2	33.9
雇用関連		60.0	60.0	55.0	50.0	50.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年12月	3.6%	17.9%	60.7%	12.5%	5.4%
平成19年3月	0.0%	29.6%	55.6%	9.3%	5.6%
平成19年6月	1.7%	20.7%	58.6%	17.2%	1.7%
平成19年9月	1.7%	10.3%	58.6%	25.9%	3.4%
平成19年12月	0.0%	9.1%	36.4%	43.6%	10.9%

### 鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは43.3となった。9月調査分より7.5ポイント低下し、横這いを表す50を3期ぶりに下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		53.6	49.1	51.7	50.8	43.3
	家計動向関連	50.0	45.6	49.3	48.0	40.1
	企業動向関連	58.8	54.7	51.5	54.4	50.0
	雇用関連	60.0	55.0	70.0	60.0	45.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年12月	1.8%	33.9%	44.6%	16.1%	3.6%
平成19年 3月	1.8%	18.2%	58.2%	18.2%	3.6%
平成19年 6月	0.0%	34.5%	41.4%	20.7%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	22.0%	50.8%	22.0%	1.7%
平成19年12月	3.3%	20.0%	35.0%	30.0%	11.7%

### 県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは43.6となった。9月調査分より6.4ポイント低下し、横這いを表す50を平成17年6月調査以来10期ぶりに下回った。また、現状判断DIは全県を通じて最も高かったものの、業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		51.3	50.9	53.5	50.0	43.6
	家計動向関連	50.7	50.0	54.3	53.0	45.6
	企業動向関連	50.0	50.0	48.5	40.3	35.9
	雇用関連	60.0	60.0	65.0	68.8	55.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年12月	6.8%	23.7%	42.4%	22.0%	5.1%
平成19年 3月	3.4%	31.0%	39.7%	17.2%	8.6%
平成19年 6月	7.0%	28.1%	42.1%	17.5%	5.3%
平成19年 9月	7.3%	18.2%	43.6%	29.1%	1.8%
平成19年12月	3.6%	25.5%	27.3%	29.1%	14.5%

### 県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは38.3となった。9月調査分より5.3ポイント低下し、横這いを表す50を2期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連DIは9月調査分を上回ったものの、企業動向関連DI及び雇用関連DIは9月調査分を下回った。



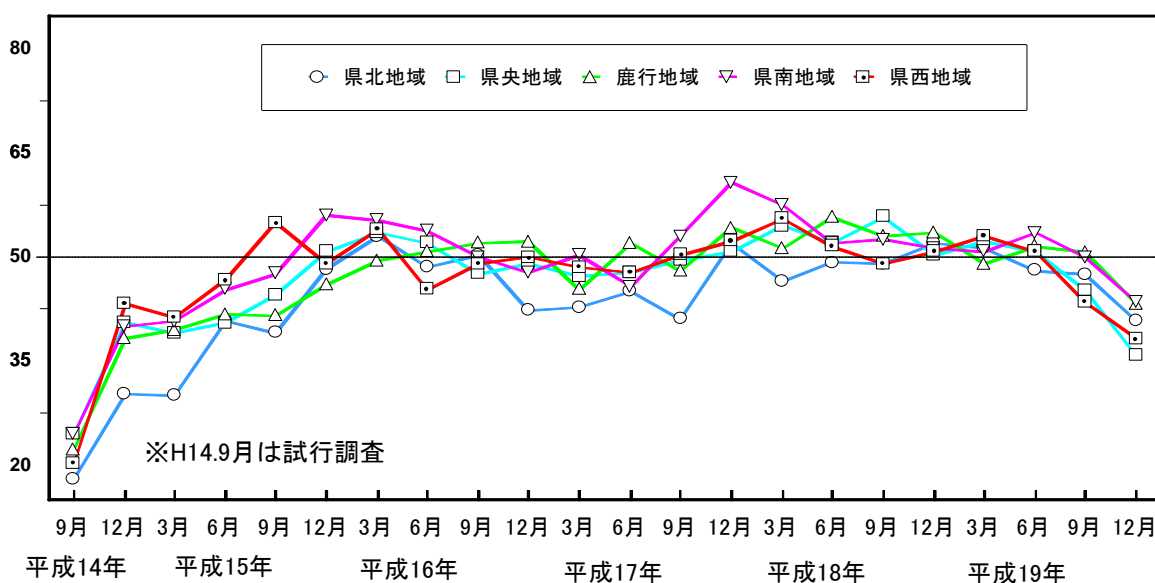
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		50.9	53.1	50.9	43.6	38.3
家計動向関連		51.4	50.0	52.2	38.9	39.6
企業動向関連		48.4	56.9	48.7	50.0	34.2
雇用関連		55.0	62.5	50.0	56.3	45.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年12月	3.6%	23.2%	48.2%	23.2%	1.8%
平成19年 3月	1.8%	29.8%	47.4%	21.1%	0.0%
平成19年 6月	1.7%	25.9%	50.0%	19.0%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	13.6%	45.8%	28.8%	8.5%
平成19年12月	0.0%	13.3%	35.0%	43.3%	8.3%

DI 図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは34.5となった。9月調査分より19.3ポイント低下し、横這いを表す50を4期ぶりに下回った。また、先行き判断DIは県央地域とともに全県を通じて最も低かった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		48.2	52.3	52.2	53.8	34.5
家計動向関連		44.9	53.1	52.1	53.9	34.8
企業動向関連		54.4	48.5	51.6	52.9	32.4
雇用関連		50.0	60.0	55.0	55.0	40.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年12月	0.0%	14.3%	66.1%	17.9%	1.8%
平成19年3月	0.0%	25.9%	59.3%	13.0%	1.9%
平成19年6月	1.8%	22.8%	59.6%	14.0%	1.8%
平成19年9月	1.7%	30.0%	53.3%	11.7%	3.3%
平成19年12月	0.0%	3.6%	43.6%	40.0%	12.7%

### 県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは34.5となった。9月調査分より12.5ポイント低下し、横這いを表す50を2期連続で下回った。また、先行き判断DIは県北地域とともに全県を通じて最も低かった。更に、これは平成14年12月の調査開始以来、最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年 12月	平成19年 3月	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月
	合計		50.9	50.0	50.9	47.0
	家計動向関連	50.7	48.6	53.3	44.6	29.9
	企業動向関連	46.4	50.0	43.3	45.3	42.9
	雇用関連	65.0	60.0	55.0	70.0	45.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年12月	5.4%	10.7%	66.1%	17.9%	0.0%
平成19年3月	0.0%	22.2%	57.4%	18.5%	1.9%
平成19年6月	3.4%	15.5%	65.5%	12.1%	3.4%
平成19年9月	3.4%	17.2%	46.6%	29.3%	3.4%
平成19年12月	0.0%	10.9%	34.5%	36.4%	18.2%

### 鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは37.1となった。9月調査分より13.3ポイント低下し、横這いを表す50を4期ぶりに下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年 12月	平成19年 3月	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月
	合計		47.8	51.8	50.4	50.4
	家計動向関連	44.1	51.5	47.9	48.0	34.2
	企業動向関連	54.4	50.0	54.4	54.4	41.2
	雇用関連	50.0	60.0	55.0	55.0	45.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年12月	1.8%	16.1%	57.1%	21.4%	3.6%
平成19年3月	1.8%	25.5%	54.5%	14.5%	3.6%
平成19年6月	1.7%	24.1%	51.7%	19.0%	3.4%
平成19年9月	1.7%	27.1%	45.8%	22.0%	3.4%
平成19年12月	0.0%	6.7%	45.0%	38.3%	10.0%

## 県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは39.5となった。9月調査分より14.1ポイント低下し、横這いを表す50を2期ぶりに下回った。また、先行き判断DIは全県を通じて最も高かったものの、業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2 - 17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		47.5	55.6	49.6	53.6	39.5
家計動向関連		49.3	55.7	52.9	56.1	40.4
企業動向関連		43.1	56.9	41.2	47.2	35.9
雇用関連		50.0	50.0	55.0	62.5	45.0

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年12月	0.0%	20.3%	54.2%	20.3%	5.1%
平成19年3月	3.4%	24.1%	65.5%	5.2%	1.7%
平成19年6月	1.8%	24.6%	52.6%	12.3%	8.8%
平成19年9月	10.9%	20.0%	47.3%	16.4%	5.5%
平成19年12月	0.0%	16.4%	41.8%	25.5%	16.4%

## 県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは35.4となった。9月調査分より12.9ポイント低下し、横這いを表す50を3期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

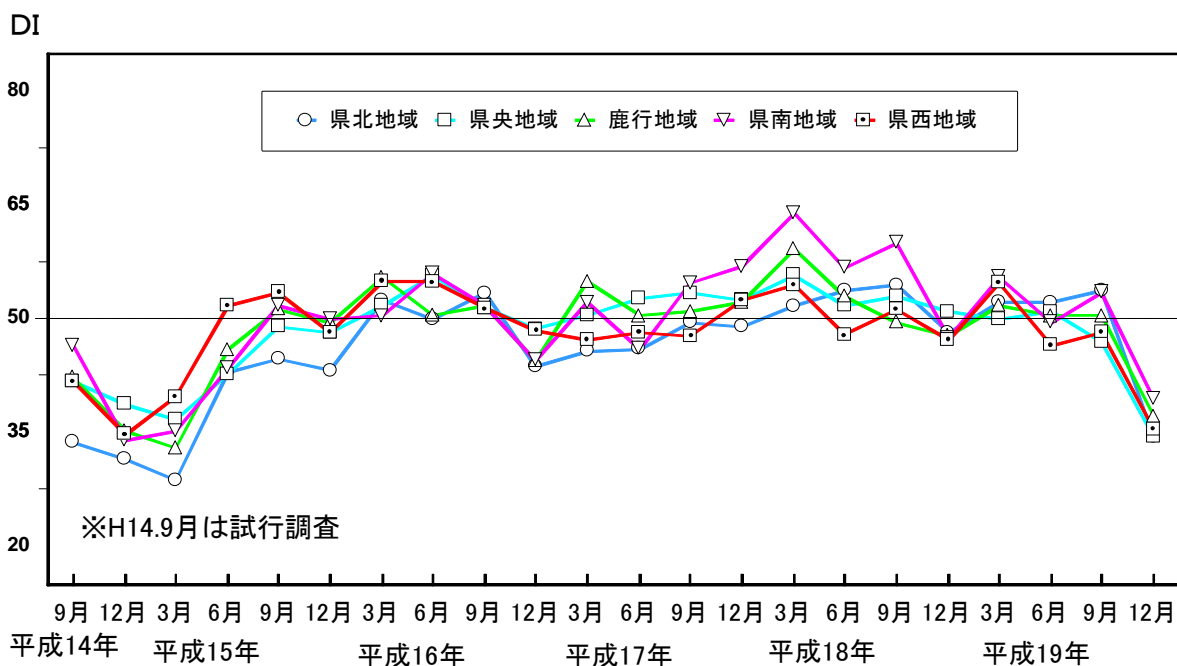
表2 - 19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		47.3	54.8	46.6	48.3	35.4
家計動向関連		49.3	55.0	47.1	50.7	31.9
企業動向関連		40.6	55.6	46.1	42.1	40.8
雇用関連		55.0	50.0	45.0	56.3	40.0

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年12月	1.8%	12.5%	60.7%	23.2%	1.8%
平成19年3月	0.0%	36.8%	47.4%	14.0%	1.8%
平成19年6月	1.7%	20.7%	50.0%	17.2%	10.3%
平成19年9月	0.0%	22.0%	54.2%	18.6%	5.1%
平成19年12月	0.0%	5.0%	46.7%	33.3%	15.0%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



### 3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	285 人	95.0%
県北地域	60 人	55 人	91.7%
県央地域	60 人	55 人	91.7%
鹿行地域	60 人	60 人	100.0%
県南地域	60 人	55 人	91.7%
県西地域	60 人	60 人	100.0%

### Ⅲ 景気の判断理由 — 1 景気の現状判断理由

#### (1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	-	-	-
やや良くなっている	家計	農産物直売所	観光客の減少により、3ヶ月前より売上げは減少しているが、対前年比では増加している。
		観光型ホテル	時節柄、忘年会などで来場者が増加した。
		タクシー運転手	年末なので、忘年会等に期待している。
		タクシー運転手	師走とあって、市内の工場などにも来客が多い。夜は忘年会等でかなり活気がある。今年は、昨年に比べて2次会へ行く人が多いようで、景気はやや良くなっているような気がする。
		ゴルフ場	予約、来場者人数が増えている。前年度の数値と比較すると、明らかに「良」と判断できる。3ヶ月前から、前年同月値をクリアする日数が早まっており、大きい月では前年同月比+20%の動きがあった。ゴルフ場の好況は、ゴルフ場利用税の納税額の動きからも推測することができる。
		レジャー施設	周辺施設の活性化により、ほんの少しではあるが、入園者数が増加している。
	企業	美容室	景気良好によるものとは思われないが、年末はボーナス時期なので平常月に比べて売上げが増加する。
		水産業関係者	シラス等の加工品向けの魚が最近まで水揚げされており、大津漁港では、小型船の船主、加工業者とも、景気が上向いている。また、地元まき網船に加え波崎方面のまき網船が多く入港しているため、乗組員が漁港周辺の町で使うお金も多く、町全体に賑やかさがある。
	雇用	製造業（電気機械器具）	上期に受注を予定していた案件が下期にスライドした。現在は、スライド案件についての着実な受注と、新製品の販売に注力しており、顧客先からも一定の評価をもらっている。
		人材派遣業	取引先からのオーダーが徐々に増加している。当社では県内全域に支店があるが、どの支店でも同じ状況である。
変	家計	商店街代表者	本来であれば、12月は繁忙期のはずだが、平月と変わらないということは、実質的には悪化しているのだろうか。
		コンビニエンスストア	11月は売上前年比が100%を超えたものの、12月に入り厳しい状況に戻っている。客単価の前年割れは続いており、依然財布のヒモは固いと感じる。
		衣料品販売店	来店客数や客単価には変化がない。
		居酒屋	来店客が少ない。3ヶ月前も現在も、売上げが悪い状況に変わりはない。
		観光型ホテル	季節のイベントがある月なので、慌ただしさはあるものの、景気が良くなっているとは思えない。
		旅行代理店	客単価が上がらない。
		タクシー運転手	当社の売上げは、地元企業のタクシー利用頻度に大きく依存している。ここ数年、地元企業の利用に目立った変化はなく、客数や売上げは3ヶ月前とほぼ同水準で推移している。
		住宅販売会社	具体的な事例がある訳ではないが、何となくそう感じる。
ら	企業	林業関係者	職場の同僚と話したところでは、現状は3ヶ月前とあまり変わっていない。
		製造業（食料品）	売上高及び収益については、3ヶ月前と比較して横這いである。
		製造業（電気機械器具）	3ヶ月前と比べて、受注はほぼ横這いである。
		製造業（電気機械器具）	変化がない。
		製造業（電気機械器具）	現在の注残量から判断して、3ヶ月前との比較では若干落ちてはいるが、月生産額を超えているのが現状である。取引先の生産計画が先行き思わしくない（下方修正）との情報もあり、総じて変わらず、安定して推移すると思われる。
		製造業（電気機械器具）	仕事量はあまり変わらない。
		建設業	民間建築の見積り依頼が増加し、人員の不足感も強くなっているが、コスト上昇分を受注価格に転嫁できず、厳しい状況は変わっていない。
		情報通信業（情報サービス業）	商談件数が増えていない。また、受注単価は依然として低く、収益に結びつかない。
		金融業	現状からは、景気が良くなっている実感はない。
		い	雇用
学校就業関係者	企業からの求人は、11月以降ほとんどなくなっている。		
求人開拓員	現場作業員の増員募集があり、景気上昇と思えなくもないが、下請け企業からは、まだまだ苦しいという話が出てくる。		

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
やや悪くなっている	家計	スーパー	客数、売上高とも低迷している。チラシに掲載された安価な商品しか売れない状況である。
		スーパー	ボーナス商戦の動きが悪い。特に、御歳暮ギフトの数量が大幅に減少している。贈答先を絞っているのか、数量は減少している一方で、単価は増加している。しかし、全体として見ると売上げは減少傾向である。
		コンビニエンスストア	ガソリン等、生活必需品の高騰が騒がれ、一般家庭や農家などで大打撃を受けているとの声を多く聞く。当店でも11月下旬頃より、売上げ、客数、客単価の全てが下降している。3ヶ月前は好調だっただけに、景気は悪化していると感じる。
		衣料品販売店	客単価が5%減少した。
		家電販売店	売上げは前年並みだが、客単価の低下と高額品（高付加価値商品）から中級品へのシフト傾向が見られる。
		小売業（酒類）	同じ町内に大型スーパー、ドラッグチェーン店が開店して以来、来店客数の減少が顕著である。
		和食食堂	近々予想される消費税の税率アップを見越して、メニュー価格を全体的に値下げした。また、これに併せて、消費税部分を内税化し、1円単位の端数をなくした。このことに加え、今年は急に寒くなったため、客入りは3ヶ月前よりも良くなったが、売上げは昨年同期よりも悪くなっている。
		観光型ホテル	前年と比較して、宿泊予約は横這いだが、日帰宴会の予約は減少している。また、料理単価も減少している。3ヶ月前の前年比よりも、今月の前年比の方が下落率が大きいので、景気はやや悪くなっていると思われる。
		ドライブイン	マイカーも観光バスも動きが少ない。ガソリン代を考慮してか、購入したい商品を代引で発送してほしいとの依頼が多い。例年であれば、10月よりも11月の方が売上げは伸びるはずだが、今年は客数・売上げとも11月の方が低かった。また、11月までの売上げの対前年比も良くない状況であり、景気はやや悪くなっていると思う。
		レジャー施設	入場者数が対前年比割れする日が続いている。
悪くなっている	企業	製造業（電気機械器具）	仕事量は減っている。目先の仕事がない。
		製造業（輸送用機械器具）	銅は安定基調だが、原油、アルミ、鋼材等の市況価格が依然として高止まっている。特に原油高騰に伴い、動力費、運搬費、梱包費等の経費へ負担が波及し収益を圧迫するも、製品契約価格に値上がり分を反映するのが厳しい状況である。また、国内の販売状況は、環境や燃費、維持費等を優先した小型・軽自動車に需要が集中し、メーカーの収益を圧迫しているうえ、青年層の車離れもあり将来的にも需要は減少傾向と見られる。
		建設業	地域によって、官・民の建設工事の数が異なる。工事の受注についても地域格差があるようだ。また、原油の値上がりが工事関連のあらゆる材料に影響している。
		不動産業	マンション等が沢山建設されているが、販売状況はあまり良くない。値引き合戦が熾烈になる一方で、顧客の購買意識は薄いままであり、市場価格だけが下落している。
悪くなっている	家計	ガソリンスタンド	値上げ続きで、マージンが減少している。元売大手は、零細小売店の仕入値以下で販売しており、競争にならない。先月の売上げで、今月の仕入代が払えない状況である。
		レストラン	来店回数が少なくなっている。
		居酒屋	10～11月の客入りは悪かったが、12月には多くの来店者があった。しかし、昨年の年末に比べると、夜9時以降の来店者数が激減している。
		タクシー運転手	年末にもかかわらず、商店街や夜の飲食店街の客足が非常に悪い。
		ゲームセンター	最近、1円パチンコ店が増えており、客がそちらへ流れているうえ、来店客の使う金額も減少している。更に、近隣の競合店も客取りに力を入れているため、益々集客が難しくなっている。
		クリーニング店	客数、商品数ともに減少している。
	企業	製造業（電気機械器具）	輸出案件が無くなり、売上減となった。
雇用	求人広告	取引先の倒産等により、求人を必要とする企業数が減少した。また、取引先の飲食店からは、来店客数が減少しているという話を聞くことが多い。	

(2) 県央地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－	－	－
やや良くなっている	家計	家電販売店	原油高の影響で、電気暖房機器や電気温水器を購入する客が増加している。よって、電気業界は全体的良い方向なのではないかと思う。
		都市型ホテル	忘年会が増加しており、賑わいがある。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	3ヶ月前と比較して、受注工事数・工事金額が増加している。
		不動産業	当業種では、春・秋が繁忙期であり、冬季は比較的客足は少なくなる。しかし、今月は前年同期と比べて、若干ながら集客や売上げが伸びており、景気はやや良くなっているように感じる。
雇用	公共職業安定所	管内10月の事業所業況調査では、普通から好調と回答した企業が281事業所中200件（71.2%）で、業況DIは前回調査時よりも0.6ポイント改善して▲9.8だった。新規求人・有効求人数は、対前年同月比で減少傾向にあるが、新規求職・有効求職者数及び雇用保険受給者実人員も減少している。	
変 わ ら な い	家計	商店街代表者	10月のミーモ（旧ダイエー水戸店）オープンに伴い、商店街の人通りが少し増えた。これで景気も良くなるかと思っただが、ミーモのテナント（食料品・衣料）の集客力はそれほど大きくないので、売上げ等は3ヶ月前とあまり変わっていない。
		百貨店、総合スーパー	3ヶ月前と比較して、前年対比ではあまり改善が見られない。
		レストラン	売上げ等には特に変化はない。
		都市型ホテル	忘年会シーズンだが、予約状況も注文内容も例年並みであり、変化は見られない。客の話でも、良くはなっていないが、悪化している様子もない。
		旅行代理店	10～11月の旅行申込人員は、前年同時期比0.2%増で推移している。
		タクシー運転手	最近に乗車する客が限られている。
		タクシー運転手	乗客の様子には、あまり変化がない。
		観光名所	来館者数や売上げは、例年並みで推移している。
		ゴルフ場	前年同期と同程度の予約は入っているものの、寒さや雨といった天候の影響なのか、キャンセルが多い。また、3ヶ月前と比べても、予約件数は大差ない程度入っている。
		ゲームセンター	売上げに変化がない。
		美容室	昨年同期の来客者数や売上げデータと比較しても、現在の状況はほとんど変わらない。
	建築設計事務所	住宅の新築設計の依頼件数は、ほとんど変わりが無い。だが、耐震補強関連の構造計算などは、以前よりも依頼が増加しているようだ。	
	住宅販売会社	来店客を対応している実感として、大きな変化を感じない。	
	企業	製造業（印刷・同関連業）	特に変わった様子は見受けられない。
運輸業（道路貨物運送業）		年末の忙しさはあるが、例年と特に変わっていない。	
金融業		年末は例年、売上げ高が上がる傾向があるが、今年も前年同様に推移しているようだ。石油高騰等の影響を受けつつも、特段の変化はないものと思われる。	
雇用	人材派遣業	例年、年末にさしかかると、受注も増えてくるのだが、今年は現状のまま停滞している。企業の直接雇用が多くなってきていることが原因と考えられる。	
	学校就業関係者	通年採用の企業を除いて、多くの企業担当者の関心は、既に平成21年3月卒業の学生に対する求人活動に移っている。企業担当者からの情報からは、現在の景気は3ヶ月前とそれほど変わらないという印象を受ける。	
	求人開拓員	求人・求職者数は減少傾向にある。企業訪問においては、特に景気の変化は感じられない。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	燃料費の値上げに関する話題が多い。燃料費は全てに関連するので、影響が大きい。
		百貨店、総合スーパー	今月は、若い世代にはクリスマスというイベントがあるので、比較的好調に動いているが、ミセス向け商品の動きは鈍い。前年同期と比較して遜色ない売上げは確保しているものの、40歳代以上の生活感のある世代の動きを見ると、ガソリンや灯油の値上がり、食品関連の相次ぐ値上げによって、かなり財布のヒモは固くなっているように感じる。
		スーパー	生活必需品の相次ぐ値上げにより、消費者の財布のヒモは固くなっている。
		スーパー	低単価商品の販売数は上がっているものの、買い控え傾向が見られる。
		スーパー	買い上げ点数や単価が下がっている。
		コンビニエンスストア	買い上げ点数や客単価が上がらない。より安い商品が売れており、利用客層の買い控え傾向が伺える。



## (2) 県央地域 【現状】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
や や 悪 く な っ て い る	家計	自動車販売店	客との会話からは景気の良い話は聞かない。また、団塊世代や高齢者の消費も思ったほど伸びていない感じがする。
		農産物直売所	ガソリンの値上げに伴い、来店客数が対前年比で8%落ちた。しかし、客単価は19%アップしており、安いものよりも高額な商品を購入する人が増えている。売上は減少しているが、以前より価格重視の傾向が薄らいでいるようにも思える。
		専門スーパー	工事関係の材料、資材の動きが悪い。建築確認申請の許可がなかなか下りないという話を耳にするが、これと関係しているのかもしれない。
		専門スーパー	色んな商品が値上がりしており、客の様子からも買い控えの傾向が感じられるようになった。生活に直結している資材関係の動きも思わしくない。
		レストラン	毎年12月は、忘年会やクリスマスシーズンのため利用客は多いが、昨年に比べ客単価は少し下がっている。また、アルコール類の消費も減少している。飲み放題プランなどは、昨年の同時期と比べてかなり減っている。
		ファミリーレストラン	客数、売上げともに、前年同期を下回っている。
		観光型ホテル	業績は夏頃から横這いだが、地元の団体や個人の利用が減少傾向にあるのが特徴的である。原材料や物価の値上がり傾向に対応し、消費マインドが下がっているように思う。
		タクシー運転手	年末となり、忘年会や歳暮等の買い物客で街は賑わっているが、夏以降、売上げは前年より低下している。
		タクシー運転手	売上げ及び実車回数で比較してみると、3ヶ月前(8/16~9/10：営業日数18日)は、売上げは376千円、(20.9千円/日)で、実車回数は216回(12.0回/日)だったが、今回は(11/16~12/15：営業日数17日)は、売上げは445千円、(26.2千円/日)で、実車回数は229回(13.5回/日)だった。売上げ、実車回数ともに増加しているが、年末の例年のパターンである。昨年同時期の1日あたり実車回数は14.5回であり、6.9%ダウンしていることから、昨年よりも人が動いていないと判断した。
		ドライブイン	来客数が減っている。加えて、商品の仕入価格が値上げされたが、売価に反映できていないため、収益も減少している。
		レジャー施設	燃料油の高騰により、利用回数を抑えている。
	レジャー施設	前年度と比較すると、入場者の減少率が大きくなっている。団体客の減少よりも、個人客の減少が大きい。来場者のほとんどは、自家用車利用なので、ガソリンの高騰が影響しているのではないかと思われる。	
	悪 な っ て い る	企業	製造業(印刷・同関連業)
製造業(一般機械器具)			11月の売上は、3ヶ月前と比べて少し減少した。
製造業(精密機械器具)			受注件数及び受注金額が、前年度と比較すると減少傾向にある。
情報通信業(情報サービス業)			企業の設備投資面においては、業績好調の余裕が感じられた年度当初の投資意欲が、昨今の原油価格急騰とこれに伴う素材の高騰などによる先行きの不透明感から、様子見状態へと変化してきているように感じる。個人の消費面においては、一部の小売やスーパーなどの苦戦は聞こえるが、総じて、絶対的悲壮感があるとは感じられない。高級品などに対する購買意欲は引き続き高いと思われる。だが、心理的な不安から来るものなのか、若干の景気後退の様子を感じる。
サービス業(広告業)			飲食店の客入りは、相変わらず芳しくない。忘年会シーズンとはいえ、小さな店ではあまり良くなっておらず、昨年の12月と比べて明らかに客入りが悪い。一方、大型ショッピングセンターの客入りは好調だが、テナントから話を聞くと、購入金額は低調とのことである。人手不足で短期アルバイトを募集したいが、売上のことを考えると現状人員で凌ごう、という店舗も少なくない。
雇用		求人広告	原油価格の高騰によるコスト高が企業収益にも響いているようだ。
悪 な っ て い る	家計	割烹料理店	原油の高騰とともに物価は上がっているのに、給料はそのままなので、生活は厳しくなる一方である。
		ドライブイン	イベントがある時は客足は伸びるものの、平常時の来客数は平年を下回っている。また、土産物等を買わない客も多い。
		理容店	今年は秋頃まで暑かったので、客足が伸びるか期待していたがダメだった。急に寒くなったからなのか、普段よりも髪を長く伸ばす人が多く、来店するのは、伸ばした髪をバサリと切る時くらいである。何十年と通ってくれた常連客がバッタリと来店しなくなったり、客足はガクリ落ちている。
	企業	製造業(食料品)	ガソリンや灯油、乳製品等、生活に身近で消費せざるを得ないものまで、容赦なく価格が上昇しており、生活に悪い影響を及ぼしている。
		製造業(金属製品)	建築基準法改正の影響で、仕事が少なくなっている。また、鋼材をはじめとする資材価格の上昇により、利益幅が縮小している。
		サービス業(コンサルタント業)	為替等のグローバル経済の影響を地方も受けることになり、景気は悪くなっている。



(3) 鹿行地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由	
良く	家計	小売業（書店）	1人あたりの買上げ点数が増えつつある。レジ待ちの客の様子にも余裕が感じられる。	
	企業	製造業（食料品）	10～12月は、プライダル、七五三、御歳暮、クリスマス等の時期なので、職種がら売上げは良くなっている。前年と比べても格段の伸びがあり、好況基調はここにも現れていると思う。	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	最近、当地域には大型チェーン店等の出店もあり、全体的に人の流れが活発になってきている。飲食店をはじめ、商業全体の動きが良くなっているように感じる。大企業の好況の影響がこんなところに現れているのだろうか。	
		コンビニエンスストア	3ヶ月前と比べ対前年の売上げは伸長している。月別の対前年比売上げも回復してきており、前年割れが当たり前という状況は少なくなっている。	
		家電販売店	歳末のため、3ヶ月前と比較すると売上げは増加しており、前年同月比でも好調に推移している。	
		観光型ホテル	予約が少し増加した。	
		タクシー運転手	アントラーズの優勝で、鹿嶋市や神栖市の盛り場には多少活気がある。前年同時期よりもやや売上げがアップした。	
		理容店	年末なので、客入りは好調である。	
	企業	製造業（食料品）	歳暮やおせち等の年末商材の受注が増加している。	
		製造業（化学工業）	原油高騰は続いているが、商品によっては売上げが増加傾向である。	
		運輸業（道路貨物運送業）	各顧客とも、在庫レベルを上げて販売しようとする動きが見られる。需要にタイムリーに、品質の良い商品を提供できる体制を再度取って行きたいのではないかと。	
		運輸業（道路貨物運送業）	製鉄所の生産が増加したため、景気は少し良くなっているようだ。	
	雇用	公共職業安定所	月間有効求職者数の減少が続き、雇用保険被保険者数も増加が続いている。	
変わらな	家計	商店街代表者	年間を通じてのイベント計画もなく、個別店舗だけの努力では限界がある。現在の固定客を維持するだけでも厳しい状況にある。	
		スーパー	商品価格が上がった分、買上げ点数が減少しており、今のところ変化はない。	
		自動車販売店	ダイレクトメールや電話等により、来店を促しているため、来店者数はそれなりに維持している。来店者数は月によって、減ったり増えたりしているため、全体としては変わらないと思う。	
		農産物直売所	歳暮用商品の販売数、客単価とも前年並である。	
		小売業（酒類）	売上げ、客数ともに大きな変化はない。	
		洋食食堂	客数、客単価とも3ヶ月前と比べて大きな変化はない。ランチの動きは好調である。ディナーの客数も10～11月に比べて持ち直してきた。	
		日本料理店	忘年会シーズンなので、3ヶ月前に比べて客数は増加したが、昨年の同時期と比べて客単価は変わっていない。	
		タクシー運転手	例月よりも多少利用者が増加している感もあるが、12月という特殊事情を差し引けば、3ヶ月前とほとんど変わらない。忘年会シーズンのため、夜は利用者が多くても、昼間の利用者はいつもと同じである。	
		ドライブイン	大きな変化は感じられない。	
		パチンコ店	売上げ、入店客数ともに大きな変化は見られず、良くも悪くもなっていない。	
	パチンコ店	稼動状況は横這いである。		
	住宅販売会社	企業の業績が、個人消費の増大に結びついていないため、景気に変化はないと思う。		
	い	企業	製造業（飼料）	穀物相場は上昇しているものの、現在のところ出荷数量には変化がない。
			製造業（窯業・土石製品）	大手鉄鋼業者では、中間決算を始め年度決算見通しも、昨年に引き続き好調らしい。2007年の設備投資だけでなく、中長期的にも設備投資計画が進行中であり、堅調に推移しているものと思われる。但し、近隣の運輸代行業では、原油高騰に端を発した燃料コストアップによる料金改定や、運転手の定着を図るための手当改定を実施したいが、過当競争が激しく、料金改定をすると客足減に繋がる恐れがあり、踏み切るのが非常に厳しいという。また、収益面も厳しいので、車両の小型化を図る等の経営工夫をしているらしい。このようなことから推して、まだまだ全体的な景気底上げにはなっていないと思われる。
製造業（鉄鋼業）			特に大きな変化は感じられない。高い水準で推移している。	
金融業			石油など原材料の高騰による影響を受けつつも、3ヶ月前と特段変化していないと思う。	
企業	不動産業	土地を購入し、住宅を新築する人の借入総額は、以前とあまり変わっていない。最近の傾向として、土地を安く購入し、建物に金をかける人が多いようだ。		
	サービス業	順調に受注が続いている。		

(3) 鹿行地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由		
変わらない	雇用	人材派遣業	年末を迎え、人材派遣の受注は控えめであるものの、依然として20～30歳代の男性が人手不足であることに変わりはない。当社だけでなく、他の派遣会社でも同様と思われる。		
		民間職業紹介業	求人企業は平均的に増加傾向にあるが、求職者の減少が響き、求人企業に対する紹介が思うようにいかない。		
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	生産原価を下回る米価をはじめ、他の農業作物でも収入の増加が見込めないことからくる将来不安が強いようだ。生産・流通・消費者が、お互いに利潤が出るように産業振興を行うことが、流通経済の原則のほうである。アメリカの穀物価格が中国産穀物よりも安いのは、歪んだ経済操作によるものだと思う。台湾では、米の自由化を契機として、地価が下がり、高利貸しが蔓延り、地方経済が混乱したようだ。日本も台湾の二の舞にならないと懸念している。		
		スーパー	日替わりの目玉商品に対して、来店客の厳しいチェックが入るようになった。		
		小売業（金物店）	通常であれば、年の瀬を迎える頃には、忙しくなる傾向があるのだが、今年は景気が低迷しており、3ヶ月前と比べて何の変化もない感じである。		
		衣料品販売店	客単価が伸び悩んでいる。ボーナスシーズンのため、高額品の需要に期待したが、暖冬の影響もあり、期待した程の売上げ増にはならなかった。		
		スナック	年末に向けて予約も少しは増えるかと期待したが、年々人の動きが減り、静かになってきている。この状況がもう少し続いたら、生きていくことも難しくなってしまう。それ程、どうしようもない所まできていると感じる。		
		割烹料理店	時期的に予約もあり忙しいが、例年に比べて売上げが今ひとつである。1人あたりの単価予算は低下傾向のようだ。		
		タクシー運転手	原油高により、一部の商品が値上がりしている。今後、更に様々な商品に値上げの兆しがあり、景気はやや悪くなっているように思う。		
		タクシー運転手	乗客の話や店の様子から判断して、景気はやや悪くなっているように感じる。		
		観光名所	食品やその他生活用品の価格が次々に上がるので、節約対策をしても追いつかない状態である。		
		ゴルフ場	入場者数は増加傾向にあるが、新規会員権の取得者数や付帯売上げは低迷している。		
		室内装飾業	景気の低迷により、新築・リフォーム物件が減少している。また、少子化により、家を作る人が少なくなった気がする。		
		住宅販売会社	展示場への来場者が、夏頃に比べ減少している。		
		い	企業	水産業関係者	例年、この時期が漁獲量の最盛期となるが、今年は期待した程の漁獲量がない。特に、この時期の主要魚種であるカタクチイワシの水揚げが減少している。更に、包装材料や副材料等の値上げが影響している。
				製造業（印刷・同関連業）	受注が減少した。
製造業（化学工業）	原油高騰による影響で、原材料や輸送費などのコストが大きく上昇し、利益を圧迫している。しかし、製品価格への転嫁も難しい状況である。				
建設業	建設業者へ住宅資材を販売しているが、建築確認が滞り気味のため、着工棟数が減少している。				
雇用	学校就業関係者	ボーナス支給額は多少上がったようだが、基本給は下がっている。また、物価が少しずつ上がっているのに、景気は前回よりもやや悪くなっていると思う。			
	求人開拓員	中小企業の求人難は以前と変わっていない。そのうえ、9月に一時値下がりした原油価格がその後値上がりに転じ、原材料費の更なる上昇が、中小企業の経営を一層厳しくしている。			
悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	原油価格の高騰等の影響で厳しい状況である。		
		小売業（菓子販売店）	石油高や年金問題等により、買い控えが目立つ。		
		小売業（薬品店）	年金問題が、客の購買意欲を鈍らせている。		
		観光型ホテル	原油価格高騰の影響を鑑みて、景気は悪くなっていると判断した。また、関係業者からは、納品価格の値上げ依頼が顕著に増加している。		
		クリーニング店	客足が伸びない。3ヶ月前よりも景気は悪くなっている。		
		クリーニング店	石油の価格が上がると、関連する他のものまで値上がりしてしまう。クリーニングでも、ドライ液や包装、ハンガー等の備品が値上がりしているが、料金は今のところ上がられないので、収益がかなり圧迫されている。		
企業	農業関係者	農作物の不作に加え、燃料費の高騰が収益を圧迫しており非常に厳しい状況である。			

## (4) 県南地域 【現状】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良 く	家計	都市型ホテル	忘年会に伴う宿泊や宴会が増加しており、売上げも伸びている。
	企業	製造業（食料品）	10～11月は前年同期より売上げが落ちたが、12月は年末ということもあり、客数、客単価とも増加している。
や や 良 く な っ て い る	家計	スーパー	今月は改装の効果があり、客数及び客単価がアップし、前年同期比を上回っているため、やや良くなっている。
		スーパー	伸長率は横這いだが、今月も3ヶ月前と同様、前年比を大きく上回っている。
		スーパー	客数は前年比105%で、売上げも前年割れしていない。
		洋食食堂	仕出し弁当とパーティ予約が重なり、通常の営業ができない程の盛況である。
		寿司店	ボーナスが出たためか、客入りが少し良いようだ。また、年末なので宴会の予約も入っているが、例年よりは少ないかもしれない。
		都市型ホテル	忘年会の開催や宴会の実施等で判断すると、昨年同期より増加傾向となっており、景気はやや良くなっていると思われる。
		ゴルフ場	12月は、来場者、予約とも大幅に増加している。平日でも、忘年コンペ等がかなり多く、活気がある。
		ゲームセンター	集客数、客単価ともに良くなっている。
	美容室	若者層を中心とした低料金のフランチャイズ店が増加している中、当店では、早朝営業やオールマイティなサービス提供などの独自性と、着付・ヘアセット・メイクなど利潤の高いメニューを強みとして、前年比ややプラスの経営を継続している。	
	住宅販売会社	つくばエクスプレス開業の影響が徐々に始まっている。	
企業	製造業（窯業・土石製品）	年度末に向けて、公共事業の発注が増加するため、売上げは伸びている。前年と比べ、受注件数はやや少ないが、単価が上昇しているため、全体としてやや良くなっている。	
	運輸業（倉庫業）	値上げの関係で、原料関係は例年になく大量に入荷・保管されている。扱量は例年と比較すると3倍近い。新規貨物も多く発生している。	
雇用	公共職業安定所	求職者が少なくなっている。	
	学校就業関係者	高校生の進路選択を見ていると、家庭にゆとりがあると感じる。また、企業も積極的に高校生に対し求人を行っていることから、昨年の今頃よりも、景気は良くなっているように感じられる。また、当校の就職状況も良く、ほとんどの学生が内定をもらっており、更に求人がきている状況である。	
変 わ ら な い	家計	スーパー	店全体の売上高に変化がない。
		コンビニエンスストア	客単価に変動がなく、売上げに大きな変化は出ていない。
		農産物直売所	今のところ売上げに大きな変化はないが、原油高により遠方からの客足が鈍いように思う。
		専門スーパー	消費動向が良くなってきたように感じていたが、原油高に伴う製品の相次ぐ値上げによって、横這いになったように思う。客の様子を見ていると、ディスカウントに対する反応が敏感になっていると感じる。好みで買うというよりも、必要に迫られて購入しているので、できる限り安価な商品を求める傾向が見受けられる。
		旅行代理店	ツアー客の申込み状況は、3ヶ月前と変わらない。
		旅行代理店	例年であれば、年末年始や春先の旅行に関する相談が多い時期だが、来店者数は大きく伸びていない。
		ゴルフ場	プレーの予約状況及び支払金額の面からも、景気に変化はないと思える。
		美容室	物価の上昇や燃料（ガソリン）価格の上昇などにより、消費意欲に翳りが感じられる。
	建築設計事務所	3ヶ月前と比べて大きな変化はない。	
	企業	製造業（一般機械器具）	これといった変化を感じない。
建設業（設備工事業）		景気に関して特段印象的なことはなく、変化はないと思われる。	
金融業		設備投資等の話が少なく、金の動きも鈍い。	
雇用	人材派遣業	長期間での雇用が少なく、期間限定的な依頼が多い。	
	求人広告	取引先からの情報や求人募集等から判断して、変化はないように思う。	

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	客数が減少している。
		スーパー	各種商品の値上げにより、景気はやや悪くなるのではないかと。
		コンビニエンスストア	ガソリン価格の高騰により、買い控えが起きているのか、買上げ点数及び客単価が前年同期よりも落ちている。
		衣料品販売店	今年は、11月頃に気温が低くなり、冬物が先行して売れた。しかし、12月は気温が高めなためか、売上げは低迷しており、前年比マイナス5%とやや悪くなった。
		自動車販売店	新車の販売台数が減少している。
		農産物直売所	燃料高騰に伴う車での出控えなのか、客足が少ない。また、1人あたりの買上げ単価も下がった。
		和食食堂	物価上昇の懸念感が、外食を控える要因になっているようだ。
		洋食食堂	忘年会を昼2時くらいから行う人達が増えている。客に話を聞くと、夜よりも予算が安くあがるためらしい。3ヶ月前に比べて客数は増加しているが、客単価は上がっていない。アルコールのオーダーも、形だけの乾杯のために、10名程度でワイン1本だけでは、ワイングラスを洗う手間の方が高くついでしまう。
		タクシー運転手	当社の売上げから判断して、3ヶ月前よりもやや悪くなっている。
		パチンコ店	稼働率が落ち、客単価も低下している。
悪くなっている	企業	農業関係者	米を含む農産物価格が上がらない中、ガソリン等の生活必需品が値上げされている。米価については、入金に追加金等を加えても、依然として低い水準であり、この先の展望が見いだせない状況である。
		製造業（食料品）	12月はギフト時期なので、売上げが増加するのは例年のことだが、デパートでの売上げが減少していることから判断して、消費者の財布のヒモは固いと感じる。前年同期と比べても売上げはやや悪くなっている。
		製造業（印刷・関連業）	同業他社が倒産した。他の業者でも景気の悪い話は聞かない。当社でも売上げが減少している。
		建設業	受注減、原価コスト高などにより、収益は悪化している。このような状況は、当社だけでなく、同業の会社でも同様のようだ。
		不動産業	土地や住宅を購入する人が減少している。少子化により、親の相続を受けられるため、自ら家を建てる人が減少しているのだろうか。
雇用	雇用相談員	各企業とも一層のコスト削減を実施しているにもかかわらず、受注しても利益の出ない状況であると聞く。大手企業も、工場は増設しても、雇用に関しては期間工の採用が中心で、コスト増の軽減努力をしている。賃金上昇がなく、物価が少しずつ上がっている現状では、好景気は全く実感できない。	
悪くなっている	家計	家電販売店	近隣に大型の競合店が出店したため、客入り、売上げが悪くなっている。
		ガソリンスタンド	原油高騰に伴い、仕入値は毎月のように値上がりしているものの、消費者の理解が得られないため、販売価格は値上げできない状況である。また、寒くなってきたので、灯油の値上げが家庭に響いているようだ。
		タクシー運転手	悪いという人は多いが、良いという人は皆無に等しい。支出に対する防衛心理が以前より強く働いている気がする。
		レジャー施設	遊覧船の予約が減少している。また、預かり艇の解約が増加している。
	企業	製造業（食料品）	依然として、資材・食材の原価高騰が続いており、利益率が減り続けて止まらない。中小企業では、製造コストを納品原価に反映できず、経営状態は益々悪化するように見える。
		製造業（窯業・土石製品）	建築基準法の改正に伴い、当社設備の工事が遅れ、支払金額も増加した。また、灯油やガソリンなど、身近な生活用品が値上がりしているため、買い控え傾向が感じられる。
		製造業（非鉄金属）	12月の受注による売上予想は、前年比横這い程度と見込まれる。但し、アルミ材料が高値で安定しているほか、溶解ガスが大幅に値上がり（+15%程度）しており、その他にも値上げ要請が目白押しで、実質減収減益の状況である。
		建設業	受注と指名が極端に減っている。業界全体の空気が悪く、明るさが見られない。当社では、12月20日に第3次人員削減（2割カット）を予定している。

## (5) 県西地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
良	－	－	－	
やや良くなっている	家計	和食食堂	プラステッククーポン発行や一店逸品運動等により、商店街の活性化を行ったところ、買物客が増加した。	
		和食食堂	売上げが上向いている。	
		タクシー運転手	年末年始の繁忙期であり、客数・売上げとも伸びると思う。	
		ゴルフ場	余計なお金は使わないという傾向は相変わらずで、付帯単価は横這いだが、入場者数は増加している。	
	企業	運輸業（道路貨物運送業）	年末需要が好調である。	
		不動産業	3ヶ月前には成約しなかった物件が、同じ条件で成約になった。また、成約件数、金額とも、前年同期を上回っている。	
雇用	人材派遣業	得意先の会社の求人が多くなった。		
変わらない	家計	商店街代表者	年の瀬となり、高額商品の動きが良くなったが、景気が良くなったからではないと思う。	
		スーパー	来店客の様子を見ていても、店頭での買い物の仕方に大きな変化は感じない。当社における客単価や1人あたりの買上げ点数も変化していない。	
		コンビニエンスストア	客単価が前年割れしている状況は、3ヶ月前と変わらない。	
		コンビニエンスストア	来店客数が増加していることはプラス材料だが、客単価が依然として低調なため、売上げが伸長せず変化がない。	
		農産物直売所	来客数や売上げの動向に大きな変化は見られない。本当に欲しいものしか購入しない傾向は依然として続いている。	
		和食食堂	3ヶ月前から何の変化も見られない。	
		都市型ホテル	忘年会シーズンなので、3ヶ月前と比べ客入りは多いが、前年同期と比べるとそれほど変わらない。	
		ドライブイン	ガソリン価格高騰による来客者の減少や穀物の仕入単価の値上げ等、マイナス要因はあるものの、売上額は前年並である。	
		ゴルフ場	来場者数は3ヶ月前と変わらない。	
		理容店	女性客が増えつつあるが、男性客は減少している。	
		理・美容店	顧客データをパソコンで統計化し管理しているが、3ヶ月前と比べて大きな変動は見取れない。	
	住宅販売会社	来店者数には変化が見られない。		
	いい	企業	農業関係者	直売所の客の様子を見ると、毎日来る近所の人は必要な商品のみ購入し、県外から来る人はまとめ買いしている。現状では、客単価は3ヶ月前と変わらず上がっていない。
			製造業（食料品）	原油価格の高騰などで経費が嵩み、業績が思うように伸びない。
製造業（金属製品）			引合い、売上げの実績から見て、同程度と判断した。	
製造業（一般機械器具）			自動車関係は、仕事量は豊富だが、納期が短い。菓子関係の仕事は、受注自体が少なく厳しい。	
建設業			まだまだシャッター通りに変化の兆しは見えない。地域格差は歴然としており、この地域では変化が感じられない。	
雇用		公共職業安定所	求人数及び求職者数に変化が見られない。	
学校就業関係者	求人数は増加しているものの、学校から企業に連絡して、5人程度求人を出してもらうくらいであり、それ程多くはない。			
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	建築関係の友人が、建築確認申請の際の検査が厳しくなったので、着工に至るまでの仕事が少なくなったと嘆いている。	
		スーパー	前年同期と比較して、買上げ点数が低下している。日替り商品など低価格商品の動きは良い。	
		スーパー	商品価格の値上げ続きなので、必要なもの以外は購入しない消費傾向が伺える。	
		家電販売店	原油高の影響で、物価が原価ベースで上がっている。特に家電製品は、部品のほとんどが原油価格に影響されやすいので、厳しい状態である。	
		自動車販売店	販売台数が落ちている。	



(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計	和食レストラン、割烹	売上げは、時期的なもので上がっているが、前年と比べると10%前後落ちている。要因は景気だけではないと思うが、やや悪くなっているのではないかと。
		都市型ホテル	原料高のうえ、仕事量も減少しているため、大変苦しいという話は良く耳にする。忘年会シーズンだが、集まる人数が少なく感じる。
		旅行代理店	旅行業だけ見ると変わらないと思うが、関連しているバス会社等は、軽油の高騰で相当辛そうである。
		タクシー運転手	12月10日から運賃が値上げされたため、3ヶ月前と比べて水揚げは多少良くなった。しかし、例年であれば年末に向けて利用者が増加するはずが、3ヶ月前と変わらないので、景気はやや悪くなっていると思う。
		タクシー運転手	街の様子を見ていて、景気がどんどん悪くなっているように感じる。
		タクシー運転手	下降を続けていた景気がようやく落ち着いてきたかな、という感じはあるが、街の様子を見てみると、例年なら活気が出てくるはずのこの時期としては「まだまだ」という気がする。夜間の客数は多少増加しているが、昼間の買物客の様子からは、ボーナスで一息ついたものの、相変わらず家計に余裕がなく苦しい、という印象が否めない。
		ドライブイン	客数、売上げ等が、若干ではあるが減少している。
		パチンコ店	地域客数の減少傾向には歯止めがかかっていない。また、遊技機の単価は上昇傾向にあり、それに比例して償却の速度も上がっている。店舗数や遊技人口の減少に伴い、一時期のように遊技機が売れなくなっており、生き残りをかけたメーカーが力を入れた分だけ、遊技機の価格は上昇することになる。遊技機の善し悪しに関わらず、新しい機種が発売されると、集客が一時的であれ増加するので、店舗では購入するが、その償却負担は結局のところ客に回っていることになる。
		レジャー施設	原油の高騰により、出費を控えている感じが見受けられる。
		クリーニング店	石油関係製品や食品なども値上がりが続いており、冬場に向かって「節約」や「儉約」という言葉を良く耳にする。冬のボーナスが出なかった会社も多いようだ。
建築設計事務所	建築基準法の改正によって、建築現場の動きが鈍くなっている。		
悪くなっている	企業	農業関係者	農業生産資材の値上がりや農産物販売価格の低迷等により、所得が減少している。
		製造業（食料品）	今月は売上高は増加する。しかし、度重なる原油と輸入農産物原料（穀物）の値上がりに伴う、原材料費の高騰分を販売価格に転嫁しきれないため、収益はやや悪化している。
		製造業（印刷・同関連業）	サブプライム問題及び原油高騰に端を発した物価（特にガソリン）の上昇は、収まった訳ではなく、まだまだ各方面に波及していきそうだ。零細企業では、給与アップどころか、賞与が支給されないところも多い。大企業と零細企業、大都市と地方の格差は益々広がるばかりで、地方はどんどん住みにくく、商売もやりづらい（やれない）状況になっていく。政治力で大企業を地方に誘致する等、地方の有効活用が求められる。
		製造業（印刷・同関連業）	企業の倒産や自己破産、廃業の話は数多く耳にするが、新たな起業や事業拡大の話はほとんど聞かない。
		製造業（化学工業）	半導体関連の伸びが期待した程なかった。民生関係の液晶や携帯電話、パチンコ関係の受注も一段落したため、3ヶ月前と比べて売上げはやや落ちている。
		製造業（電気機械器具）	来客数が減少している。また、求人を出した際の求職応募者が増加していることから、景気はやや悪くなっていると感じる。
		金融業	中小・零細企業では、原材料費や燃料費の高騰が財務面に与える影響が大きいため、利益確保に追われている。
		サービス業（コンサルタント業）	石油製品の高騰を始めとする原材料等の値上がりにより、利益が圧迫されている。
		悪くなっている	雇用
就職相談員	原油高でコストが上昇する中、製品単価は据え置きのため企業の利益は薄い。このため給料に反映できず、従業員が辞めていったり、集まらなかつたりしている。現状では、生産も購買も上がっていないのではないかと。		
悪くなっている	家計	衣料品販売店	原油高騰に伴う諸物価の値上げや年金問題など、経済的にも政治的にも消費環境は厳しく、12月1日以降売上げは急降下している。
		ゲームセンター	クリスマスシーズンなので、3ヶ月前よりは集客があるが、前年同期と比べると、かなり減っている。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	昨年同期と比べ、2割程度売上げが減少している。
製造業（窯業・土石製品）		窯業・土石製品の関連業界は、年々景気が悪くなっている。当社は、現時点では忙しく工場が稼働しているものの、10日後は全くわからない状況である。仕事の量が多くて忙しいのが理想だが、納期が短いので忙しいだけなので、景気は悪くなっていると判断した。	
サービス業（広告業）	年末の仕事量が減っている。特に、大きな仕事が減っている。細かい仕事が多くなっているため、時間がかかる割に売上げは伸びない。		

### Ⅲ 景気の判断理由 — 2 景気の先行き判断理由

#### (1) 県北地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－	－	－
やや良	家計	タクシー運転手	3ヶ月先は異動シーズンであり、歓送迎会などの行事が増加するので、タクシー利用者も増加すると思う。
	企業	製造業（電気機械器具）	3ヶ月後は、今月に比べて受注が少しずつ増える見込みである。
変 わ ら な い	家計	スーパー	スーパー業界はオーバーストア気味で、特価品を買い廻りする客が増加しているため、売上及び利益率的には今後も厳しい状況が続くと思われる。
		コンビニエンスストア	プラスとなる要因が見当たらない。しかも、物価上昇により、更に消費が落ち込む可能性もある。
		衣料品販売店	景気変動の兆しが見えない。先行きは不透明である。
		居酒屋	1～2月には、客数も例年並みに戻らと思う。
		居酒屋	3ヶ月先も売上げが悪い状況に変わりはないと思う。
		和食食堂	原油の値上がりのためか、人も車も動きが少ない。年末年始から春先にかけても、あまり多くは望めないと思う。
		観光型ホテル	宿泊・日帰とも、前年同様の予約状況であり、景気は変わらないと思う。
		旅行代理店	受注件数、客単価が改善される見込みがない。
		ドライブイン	ガソリン税の引き下げを検討するような話も聞くが、あちこちで色んな商品の値上げが続いているため、消費者の行動に大きな変化はないのではないか。ドライブインという業種柄、客入りを左右するのは、景気もさることながら、天候の要素が大きいのと思う。
		レジャー施設	客単価、滞在時間、入場者数のいずれを見ても、上向きのトレンドを示すものがない。
な い	企業	製造業（食料品）	売上高については、3ヶ月前と特に変わらないと思われるが、収益については厳しい状況である。
		製造業（電気機械器具）	変化の兆しを感じない。
		製造業（電気機械器具）	納期が年度末までの物件を幾つか受注しているが、業況が好転するほどの効果はないと思う。
		製造業（電気機械器具）	医用関連製品等については、今後も着実に受注を得られる見込みだが、原油高の影響等により、顧客先の投資環境が悪化する可能性もあり、楽観視はできない。
		金融業	県北地区、特に日立市では、地元企業の影響が大きいため、当企業の業況改善がなければ、地域景気の回復を実感することはできないと思う。
変 わ ら な い	雇用	人材派遣業	工場増築に伴う人材派遣依頼がきていたり、景気は回復傾向にあると思うが、現状より良くなることはないだろう。現状維持ではないか。
		公共職業安定所	原油等資源価格が高騰しているものの、雇用面への影響は見られない。
		学校就業関係者	企業を訪問した際にも、企業から来訪者があつた際にも、受注が伸びている又は今後伸びそうという感触は感じられない。
		求人開拓員	情報産業においては、受注残があるが利益率が悪いので、売上げ増は見込めても、景気上昇には繋がらない。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	商店街への来街者の減少に歯止めがかからない。
		スーパー	石油製品を含めた値上げラッシュの情報により、消費額は減少すると思う。「良いものは売れる」という神話が崩れるかもしれない。また、客の様子を見ていると、価格に敏感になっているためか、商品を選択する時間が長くなっているように感じる。
		コンビニエンスストア	物資の価格高騰が今後も続くようであれば、消費環境は更に悪化すると思われる。
		衣料品販売店	ガソリンや灯油を始めとして、物価が上昇しているため、消費にも翳りが出てくると思われる。
		家電販売店	買い物に慎重になっている様子が見受けられる。

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
やや悪くなっている	家計	農産物直売所	毎年、観光客が増加する時期ではあるが、燃料代の値上がりにより、出足が鈍くなるのではないかと懸念している。
		小売業（酒類）	飲酒運転の厳罰化の風潮の中、得意先の飲食店でもアルコール飲料の売行きが芳しくないようだ。また、忘年会や新年会等の宴会を自粛する企業も目立つ。
		レストラン	さくらシティ日立が昨年11月近所にオープンし、この影響で当店の集客も伸びていたが、最近さくらシティ日立の集客が伸び悩んでいるため、当店の客足も徐々に遠のいているように感じる。
		観光型ホテル	生活必需品である灯油、ガスの外、食品も相次ぎ値上げされ、将来に不安を覚える。
		観光型ホテル	年度末なので、来場者増は期待できるが、12月の客入りが良かっただけに、比較するとやや悪くなると思う。
		タクシー運転手	今年の後半は、毎月のようにガソリン価格が値上げされたが、来年以降も更に上がると思う。県北地区では今のところ、タクシー料金の値上げはないが、次期は上がるのではないかと。現状ではまあまあの景気も、年明け以降、ガソリン価格+タクシー料金のダブル値上げにより、やや悪化すると思う。
		タクシー運転手	例年の傾向だが、年明けから3月にかけては売上げが減少する。今年も、現在よりやや悪くなるのではないかと推測している。
		ゴルフ場	食品や燃料の値上げ傾向に伴い、相変わらず安売り商品だけが一人勝ちしている。ゴルフ場では、ここ数ヶ月好況が続いていたが、前防衛事務次官の収賄事件の舞台になったのがゴルフ場ということもあり、今後はやや悪くなっていくのではないかと不安である。
		ゲームセンター	常連客は減少傾向にあるうえ、競合店も必死で客取りしてくるため、新規客を増やすことも難しい。この先も明るい兆しは見えない。
		レジャー施設	原油価格の高騰により、取引業者からは、値上げの要請ばかりで、先行きに不安を感じる。
悪くなっている	企業	水産業関係者	冬季は時化が多く、船体検査に時間が取られ、生産量は落ち込む。また、船舶用燃油、加工用燃油は、これからの程度高騰するかわからず、大きな不安要因である。このため、先行きは現時点よりもやや悪くなると思う。
		製造業（電気機械器具）	本年は作業量に恵まれた年だったが、年明け後3ヶ月については、取引先の状況から判断して、現状からはやや悪くなると思われる。
		製造業（電気機械器具）	今の時点で判断は難しいが、原油高がかなり影響してくるのではないかと。
		製造業（輸送用機械器具）	原油価格の高騰は今後も継続すると予想され、その影響が懸念される。また、国内販売においては、青年層の車離れもあって、将来的にも減少傾向と考えられる。
		建設業	客の様子からは、暫くの間、仕事量は増加傾向にあると思われるが、コスト上昇分を受注価格に転嫁できない厳しい状況は続くと思われ、景気について前向きではない。
		情報通信業（情報サービス業）	物価上昇などの影響で、投資意欲が落ちるのではないかと懸念している。
		不動産業	マンション等の販売状況は芳しくなく、値引き合戦が熾烈になる一方、顧客の購買意識は薄いまま、市場価格が下落するという現在の状況は、短時間では改善しないと思う。また、これから建設されるマンションも多いため、需要と供給のバランスは崩れたまま推移することが予想される。
悪くなっている	家計	ガソリンスタンド	客の動きが悪くなっている。ガソリンスタンドの倒産も増えており、先行きは悪いと思う。
		タクシー運転手	3月には、地元企業の工場が県南地区へ移転するという話もあり、全く先行きが見えない。
		クリーニング店	石油関連商品の大幅な値上げに伴い、主婦層の財布のヒモがきつくなり、消費にマイナスの影響を与えそう。
	企業	林業関係者	石油関連製品の値上がりは続き、その他の商品も今後値上がりしていくと思う。これに対し、林産物（木材、木製品等）や地場農産物（コンニャク、タバコ、米等）の価格は上がらず、生活は苦しくなる一方だと思ふ。
		製造業（電気機械器具）	2007年度末から2008年度上期にかけては、生産計画によると、受注高が落ち込む見込みである。
		建設業	全国的に景気は良くなっているようだが、都市部と地方との格差を、今後はより一層感じることになりそうである。建設業も従来の形に捕らわれず、経済社会に対応するよう事業形態を考えて行かなければならないと思う。
雇用	求人広告	この先3ヶ月間で、この状況を回復できるとは思わない。その他、打開策があるようにも思われない。	



(2) 県央地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－	－	－
やや良くなっている	家計	家電販売店	来年は北京オリンピックがあるので、デジタル機器の購入欲求が高まっているようだ。オリンピックが始まるまでに、地上デジタル放送対応テレビやチューナーを購入する人、アンテナ工事を行う人はかなり多いのではないかと。
	企業	製造業(印刷・同関連業)	やや受注が上向いており、社員のコスト意識も上がっている。
		製造業(窯業・土石製品)	3ヶ月先まで工事量が増えている。
		製造業(金属製品)	建築基準法改正による混乱も、春先までには収拾するのではと期待している。
		不動産業	春の繁忙期に入るため客足は伸びると思う。また、集客や売上げが前年同期比を上回っている現在の傾向は、この先も続くと思われる。
雇用	人材派遣業	年度末ということもあり、現状よりは好転すると思われるが、新卒採用も復活してきている現状を踏まえると安心はできない。例年よりも伸びは鈍化する可能性が高い。	
変 わ ら な い	家計	商店街代表者	景気が良くなる要素も悪くなる要素もない。
		百貨店、総合スーパー	粗利率は改善傾向だが、食料品や日用品の値上げがこのまま継続した場合、個人消費への影響が懸念される。
		レストラン	先行きの見通しに変化の兆しはなく、この先も大きな変化はないと思う。
		ファミリーレストラン	年明けより新しいメニューを導入するが、これにより売上げが良くなるか、悪くなるかはわからない。
		タクシー運転手	当社では、運賃値上げは見送ったものの、全車輛禁煙となったため、乗客の反応を気にしていたが、運賃が上がらなくて良かったという声が多く、客足等への影響は少なそうである。
		タクシー運転手	春の暖かい気候に人の動きも活発になるし、卒業・入学、人事異動の時期なので、歓送迎会も多くなると思われる。しかし、対前年比の売上げ低下傾向は、依然として変わらないと思う。
		タクシー運転手	乗客との会話でも、この先も景気は変わらないのではないかという意見が多い。あまり期待していないようだ。
		観光名所	春先なので客足は増えると思われるが、例年に比べ特にプラスとなる材料はない。
		ゲームセンター	客の回転が速く、客単価が伸びなくなっている。
		建築設計事務所	3ヶ月程度の短期間では、変化もあまり見られないと思う。
	住宅販売会社	物価上昇など、良くなる要素がない。	
	企業	製造業(印刷・同関連業)	特に目立った要素が見当たらない。
		運輸業(道路貨物運送業)	原材料高の割に、製品価格への転嫁が遅れている。
情報通信業(情報サービス業)		原油高や円高の影響がどこまで浸透するのか不透明などではあるが、市場や消費者へ与える心理的不安が懸念される。但し、これまで長期間続いてきた回復基調が、これらにより直ぐ崩れるとは思えない。企業は、高騰したコストの製品価格への転嫁が可能か否かによって、業績格差は一層拡大するだろう。しかし、我慢することに慣れた一般消費者のマインドが、大きく冷えることには繋がらないと思う。景気は暫く横這いで推移するのではないかと。来春以降に期待したい。	
金融業		年度末に向け、例年同様に受注の伸びは見られるが、受注単価は依然として横這いであり、受注自体に特段の変化は見られないものの、利益は減少気味のようだ。	
雇用	公共職業安定所	水戸市郊外に出店する店舗が増加しているの、雇用拡大が見込まれるものの、原油価格の高騰により、運送業や石油を原材料とする製造業は厳しい状態となるのではないかと。また、6月の建築基準法改正により受注が減少し、収益悪化により事業縮小や倒産に追い込まれる中小建設業者が増え、失業者も大勢出ると予想されるため、相対的には求人・求職状況に大きな変化はないと思われる。	
	学校就業関係者	既に平成21年3月卒の学生用の求人票も届けられ始めているが、その記載内容からは、多くの企業で依然として求人意欲が高いことが伺われる。	
	求人開拓員	企業訪問では、特に変化の兆しは感じられない。	
やや悪く	家計	商店街代表者	燃料費の値上がりにより、他の物価も上がる可能性が大きい。
		百貨店、総合スーパー	ガソリン、灯油、食品等の生活必需品の値上げ傾向がこのまま続きそうであり、衣料品の売行きは、よほどのトレンドが見られるもの以外は厳しいと思う。
		スーパー	生活必需品の値上げは、今後も止まらなると予想されるため、消費活動は鈍化し、景気はやや悪くなるのではないかと。

(2) 県央地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
やや悪くなる	家計	スーパー	生活に密着している電気、ガス等も値上げされる予定であり、家計に及ぼす影響が懸念される。
		スーパー	食品製造メーカーの値上げは今後も続く予想される。また、原油価格の推移に左右される状況は一層深刻化すると思う。
		コンビニエンスストア	買い上げ点数や客単価が上がる要素がない。原料価格の高騰により、商品の価格や規格に影響が出始めている。主要客層は低所得化し、物価上昇に伴う支出だけが増大していく状況は今後も続くと思込まれ、売上げに悪い影響を及ぼすと思われる。
		自動車販売店	特にガソリンの値上がりによる消費者の警戒感が強く、この先3ヶ月では回復は見込めないと思う。
		専門スーパー	灯油をはじめとする生活必需品が値上がりしているため、その他の商品への出費を控えているように見える。
		専門スーパー	この先も物価の値上がりは続くようなので、現状もしくは多少悪化すると予想している。12月は年末年始絡みの季節必需品等の動きが見込めるが、年を越した1月以降には特別な事由がないため、消費が一段と冷え込むのではないかと懸念している。
		レストラン	歓迎会等の時期に入るが、客単価の大きな伸びは期待できない。酒類の消費量も今以上に減少するのではないかと懸念している。
		都市型ホテル	平常に戻り、人の動きも落ち着き始めると思う。
		都市型ホテル	食材やガソリン、灯油などの値上げにより、経営が厳しくなる会社もあるのではないかと懸念している。
		観光型ホテル	物価が上昇しつつあり、消費を控える傾向が今後も続くと思われる。全体的に景気が良くなる展望は見えない。
		旅行代理店	原油高の影響で、生活に直結するものが値上がりしているため、贅沢品である旅行の需要がやや悪化するのではないかと懸念している。
		ドライブイン	昨年の梅祭りと、現在の予約状況から予測した3ヵ月後の状況を比較するとやや少なく感じる。
		ゴルフ場	例年と同程度と見込んでいるが、冬季には来場者数の伸びが期待できない。
		レジャー施設	元々オフシーズンのため、利用回数は減少するが、前年度よりも燃料油が高騰しているため、利用回数を更に抑える傾向があるのではないかと懸念している。
レジャー施設	今後も、来場者が大幅に減少することはないとしても、現状維持も厳しい状況にあると思われる。		
悪くなる	企業	製造業(一般機械器具)	景気の頂点を打ったように感じる。今後はやや悪くなっていくのではないかと懸念している。
		製造業(精密機械器具)	サブプライム問題、石油製品や食品の相次ぐ値上げ等により、消費者の間には物価上昇懸念が強まっているように見受けられる。これらのことは、消費者の財布のヒモを固くするであろうし、消費者心理がこのまま冷え込めば、企業の継続的な設備投資への悪影響も避けられないのではないかと心配している。
悪くなる	家計	農産物直売所	これから本格的な冬季を迎え、季節的に人の動きも鈍ると思う。また、灯油高の影響が、生活費へのしわ寄せとして表面化するのではないかと懸念している。
		割烹料理店	大企業は地方に進出し、大きく伸びているようだが、個人店は寂れていく一方である。
		タクシー運転手	物価が上がり個人消費は落ちる、原油高で企業の業績も落ちる、しかし収入は増えない…先行きにプラス材料が見えない。
		ドライブイン	食材等の仕入価格の値上げが今後も続くと思う。
		美容室	客の来店サイクルが昨年より長くなっているような気がする。
		理容店	周辺では、景気の良くなる話は聞かない。正月明けも一段と悪化すると思う。
悪くなる	企業	製造業(食料品)	原油価格の高騰による消費財の価格上昇は、今後も止まらないと思われる。企業を経営するうえで、原材料価格のみ上昇し、製品価格に上乗せできない状況は、本当に厳しいと言わざるを得ない。
		サービス業(広告業)	地元中小企業の賞与支給状況は悪い。昨年より下がったり、カットされたり、良くても昨年同様である。中小企業が苦しんでいる状況を、一部大手企業の好調さで覆い隠されている現状は大変残念である。この先、地元中小企業の経営が、原油価格高騰により更に悪化することは確実だと思われる。
		サービス業(コンサルタント業)	建築基準法改正の影響で、建築確認申請の事務処理が大幅に遅れている。このことで、今後地方経済は大きなダメージを受けると予想される。
雇用	求人広告	取引先の様子を見ると、もはや企業努力では対応しきれない段階までコスト高が進行しているように感じる。売上げが上がらないので、人員も増やす必要がないとのことで、求人広告の受注も減少する一方である。	

(3) 鹿行地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－	－	－
やや良くなっている	家計	商店街代表者	大企業の好況の影響なのか、最近、当地域では、全体的に人の流れが活発になってきているが、この傾向は今後も当面続くと予想される。
		小売業（書店）	今後3ヶ月で大きな変化があるとは思えないが、現状から見て、やや良くなるのではないと思う。
		観光型ホテル	3ヶ月先の予約状況を見ると、昨年同期よりも増えているので、景気はやや良くなっているのではないかと。
雇用	公共職業安定所	来春卒業予定で就職を希望している高校生を採用する企業の採用意欲が高いため、就職内定時期も早く、内定率も高い。また、未充足企業の採用意欲も引き続き高く、採用地域の拡大も行われている。	
変 わ ら な い	家計	コンビニエンスストア	売上げの前年割れに、若干歯止めがかかったように見えるものの、売上げ増に転じる大きな要因は見つけられない。現状はいわば、底に辿り着いたという状況であり、今後も大きな変化はないのではないかと。
		家電販売店	シングル需要の本格化、セット商品のワンランクアップ等、先行きに明るい要素はあるものの、現状よりも良くなる程ではない。
		農産物直売所	年明けの予約注文は前年並である。
		小売業（金物店）	設備投資が減少しているため、先行不安感は否めない。景気は低迷したまま推移すると思われる。
		衣料品販売店	原油の値上がりに伴い、物価が上がっているにも関わらず、所得は変わらないので、先が見えない状況が続くと思われる。
		洋食食堂	客数、客単価とも3ヶ月前と比べて大きな変化はないと思う。
		割烹料理店	客との会話の中で、飲食の機会が減ったという話をよく耳にする。
		タクシー運転手	春になっても、物価高は続きそうなので、景気は悪いまま変わらないと思う。
		観光名所	観光地周辺にも活気がない。値上げが相次ぐ現状では、レジャーへの出費もこれからは節約されるようになっていくのではないかと懸念している。このような状況に対して国・県・市は、有効な対策を講じているようには何えず、時間だけが過ぎていっているように感じる。
		パチンコ店	3ヶ月先も、業界を取り巻く環境に大きな変化があるとは思えない。現在と同じ水準を維持したまま推移するのではないかと。
		理容店	春先は時節柄、髪を切る人が多くなるので、現在の好調を維持できると思う。
		クリーニング店	3ヶ月先も、客足は変わらないと思う。
		住宅販売会社	企業の業績が個人消費の増大に結びつかない現在の状況は、この先も変わらないと思う。
		住宅販売会社	住宅購入の平均予算が減少しているため、当面はローコスト住宅が市場では求められるようになるのではないかと。一時は、良いものなら予算をかける傾向があったが、また元のような価格重視のローコスト住宅がメインになりそうだ。
企業	農業関係者	資材費が値上がりする一方で、農産物の高値が期待できないため、この先も悪い状況は変わらない。	
	水産業関係者	水揚量の大幅な増加は見込めず、現状のまま推移するものと思われる。また、年明けから製品価格の値上げ交渉が本格化する見込みだが、すんなりとは行かないだろう。	
	製造業（化学工業）	この先原油高騰が続いても、商品によっては売上げを好調に維持できると思う。	
	製造業（窯業・土石製品）	サブプライムローンの影響による株価下落や、建築基準法の改正及び材料価格の値上がりによる建設工事の減少等、マイナス面はあるものの、昨年に引き続き高水準の冬期ボーナスも支給され、年末年始にかけて個人消費にも期待できると思われるので、現状と変わらず横這いで推移すると思う。	
	製造業（鉄鋼業）	現在も基盤設備の更新等が旺盛であり、急に落ち込むとは考えにくい。	
	建設業	建築資材の値上がりもあるので、今後着工棟数が伸びることはないのではないかと。	
	運輸業（道路貨物運送業）	相変わらず、商品の価格変動が続いている。価格変動に伴い、物流の動きは大きく変わってくると思う。物資の流れを厳しく見極めて判断することが大切だと思う。	
	運輸業（道路貨物運送業）	製鉄所が現在フル生産に近いので、年明けも貨物の動きは好調なまま推移すると思う。	
	金融業	例年どおり、年末受注は伸びているが、受注単価は依然として横這いで推移していることから、3ヶ月後も昨年に比べ大きな変化は見られないと思われる。	
	サービス業	今後も受注は順調に続くと思われる。	
雇用	人材派遣業	20～30歳代の男性の人手不足状態に変わりはないと思うが、4月の新入社員入社を目前として、新規派遣の受注は若干控えめになるのではないかと。	
	民間職業紹介業	大手企業の直接雇用や求職者の正社員雇用へのこだわり等もあり、依然マッチングが難しい状況に変わりはないと思う。	

(3) 鹿行地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
やや悪くなる	家計	商店街代表者	景気は、国・地方経済の健康状態次第である。元気なら好景気、病気なら不景気となる。現在の景気を回復させるためには、検査ばかりではなく、治療が必要不可欠である。日本には、豊かな国造りができる条件が揃っている。素直、勤勉、真面目は、発展への実践・自覚の第一歩である。治療の実践には、国・地方の中枢部の理解が大切なのは言うまでもない。早急な対応を期待したい。
		商店街代表者	燃料費や食材等の価格上昇により、企業では収益率が低下し、消費者の財布のヒモはますます固くなるだろう。
		スーパー	商品価格が上がっても、給与は増加しないと考えられるため、今後景気は厳しくなると思う。
		自動車販売店	燃料価格がかなり上がっているのに、無駄なものは買わない、使えるものは使うという感じの節約ムード、新品の買い渋り傾向が一層強まるのではないかと。
		小売業（菓子販売店）	原材料費の値上げや、石油高などで、商売がやりづらくなっている。
		小売業（酒類）	ビール等の値上げをメーカーが発表したため、この先はやや悪化すると思われる。
		小売業（薬品店）	郊外に大型店舗ができた影響で、客数が減少している。
		日本料理店	生活していく上で必ずかかる食品やガソリンの価格が値上げされ、今までと同じように生活していても出費が高む一方である。生活費を節約するために、交遊費を削る人が多いようなので、これから飲食店は厳しいと思う。
		タクシー運転手	今後、更に商品の値上げが続けば、景気が好転するとは思えない。
		タクシー運転手	人の動きが激しい12月を過ぎれば、その反動で、年明けは暇になることが予想される。世間一般のムードが悪いので、客も出費に慎重になると思う。
		タクシー運転手	タクシー運賃の値上げにより、多少客離れがあるかもしれない。
		ドライブイン	燃料価格が高騰しているため、自動車での利用が多い当施設では客足が遠のくことを懸念している。また、燃料の高騰は、人気商品であるハウス栽培の農産物生産や施設の光熱費、資材等にも影響を及ぼす可能性が高いため心配である。
		ゴルフ場	ガソリン等の高騰による悪影響が出てくるのではないかと。
		パチンコ店	現状は横這いだが、今後良くなる要素がなく、むしろやや悪化するのではないかと。
い	企業	製造業（食料品）	年末受注の反動もあり、年明けは受注減が予想される。
		製造業（食料品）	今年の売上は、昨年に比べ、若干だが伸びる見込みであり、景気の良さを確かに実感する。だが、例年1～2月は売上げが落ち込むので、現状と比較するとやや悪くなるのではないかと。
		製造業（飼料）	現在のところ、飼料価格の上昇に対して、それに見合う程度まで畜産物・鶏卵の価格が上昇していないので、この先次第に景気の足を引っ張るのではないかと懸念している。
		製造業（印刷・関連業）	良くなる材料が見当たらない。
		製造業（化学工業）	原油価格の動向次第では、更に大きな減益が予想される。設備投資にも優先順位を付ける等、影響が出始めている。
		不動産業	身の回りの小さなものから建築資材に至るまで、様々なものが値上がりしているため、新築する人が減少するのではないかと心配している。
雇用	雇用	学校就業関係者	給料は年々下がっているのに、物の値段はどんどん上がっていくので、景気は先行き悪くなりそうである。
		求人開拓員	大手企業からの請負業者が多い当地域において、年度当初の予想を上回る物価の上昇分を価格に転嫁できない状況が今後も続きそうだ。
悪くなっている	家計	スーパー	食費を安くするために、お買い得品や日替わり商品を目当てに来店する客が増加している。
		コンビニエンスストア	明るい話がない。
		スナック	1～2月になると、ボーナスも使い切ってしまうので、人の動きは少なくなる。以前は、役場の人も店に来てくれたが、市町村合併により、村役場は市の支所となり、勤務する人も減ってしまった。最近の客の様子は、皆一様に疲れた表情で、顔色が悪い。ツケもなかなか払ってもらえず、辛い状況である。周辺の同業者に聞いても同じような状況らしい。
		観光型ホテル	原油価格の高騰は、これからも景気に悪い影響を及ぼすだろう。これに伴って、関係業者からの納品価格の値上げ依頼は増加すると予想される。
		クリーニング店	これからも石油の価格は上がり、収益が圧迫されると思う。
		室内装飾業	物件が減少しているため、仕事の取り合いになり、受注単価が急落している。また今後、所得の減少に拍車がかかるような気がする。



(4) 県南地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－	－	－
やや良くなっている	家計	スーパー	今年1年のどの月も、売上げ、客数ともに前年比を割っていないので、今後も前年比はクリアできると思う。
		コンビニエンスストア	客単価の変動は確認できないものの、客数は若干増加傾向である。
		家電販売店	春のシングル需要により、白物家電を中心に売上げの上昇が見込めると思う。
		都市型ホテル	謝恩会や歓送迎会の時期であり、昨年と比較しても予約の入り具合が微増しているため、景気もやや良くなっていると思われる。
		都市型ホテル	現在の予約状況を見ると、宿泊、宴会ともに増加しており、売上げも伸びると思う。
		ゲームセンター	各種イベントを継続して実施することにより、新規客だけでなく、リピーターや固定客も増加している。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	希望的ではあるが、これから年度末の3月にかけて忙しくなってくるので、やや良くなると思う。
		運輸業（倉庫業）	値上げの関係で、原料関係の扱ひ量の増加傾向は今後も続くと思われる。但し、製品になった後の動きの情報については未だははっきりしない。
	雇用	公共職業安定所	求人が増加してきた。
	変 わ ら な い	家計	商店街代表者
スーパー			春には毎年創業祭セールを行うので、客数・客単価が上がるのは間違いないが、ここ3ヶ月、前年比が横這いで推移しているため、この先もこのまま変わらないと思う。
コンビニエンスストア			年金不安や増税懸念など、政治が混迷しており、何かしらの抜本的な対策がないと、景気改善は厳しいと思う。
自動車販売店			新車・中古車の市場が伸びない。
専門スーパー			特別、景気回復に繋がる世相状況ではないように感じる。地域的に考えれば、つくばエクスプレス沿線の開発が進んでおり、消費活動も活発化するのではと思うが、首都圏に居住するよりは安く住宅購入ができるため、沿線への居住が増えているだけのようだ。
和食食堂			物価上昇の懸念により、外食を控える傾向は今後も続くと思う。
寿司店			3ヶ月先は年度末であり、卒業シーズンなので、多少は客が動くと思われる。だが、客の財布のヒモは相変わらず固そうだ。
タクシー運転手			物価が値上がりしているため、出費を抑える傾向があり、先行きの景気が良くなる期待が持てない。
ゴルフ場			天候に左右される部分もあるが、大きく変化するとは思えない。
美容室			物価の上昇傾向は今後も変わらないと思われる。景気の先行きが不安である。
美容室			正月や成人式など、通常なら美容室が増益を見込める時期だが、成人式の着付けやヘアセット等は写真館が行うことが増え、美容室の利用は激減している。正月の特別着付けの利用も期待薄になりつつあり、年中トータルで魅力のあるメニューを開発し、販促することが必要だと思う。
建築設計事務所			見積りの話はあるものの、受注に結びつかないため、この先も景気は変わらないのではないかと。
住宅販売会社			原油価格の急騰により、先行きは楽観視できない。
い			企業
	製造業（食料品）	取引先への販売数が伸びる訳でもない。要求される条件は厳しいままで、明るい話はない。これからは、取引条件の見直しも視野に入れた難しい運営が続くと予想される。	
	製造業（食料品）	例年2～3月は、年末頃と比べると購買気運は低下する。だが、今年も前年と同程度の売上げは見込めると思う。	
	製造業（一般機械器具）	今後3ヶ月の間に大きな変化はないと思う。	
	建設業（設備工事業）	受注は必要に迫られての修理などが多いため、そこから景気を判断することは難しいと思われる。	
	金融業	地元中小企業で、業況が好転している企業が少ないため、景気は現状と大きく変わらないのではないかと。	

(4) 県南地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変わらない	雇用	人材派遣業	年明け以降も、長期の雇用依頼は少なく、期間限定的な依頼が多いため、景気は現状と変わらないと思う。
		求人広告	大型店の出店や求人募集があり、一部では動きが見られるものの、全体的には横這い傾向にあると感じる。
		学校就業関係者	入学希望者数だけで判断すると、あまり変わらないように思う。
やや悪くなっている	家計	スーパー	食品の値上げがこのまま続くようであれば、買上げ点数の減少や売上げに影響が出るのではないかと懸念している。
		スーパー	今後、来年にかけて、商品の値上げラッシュがあるため、消費は冷え込むのではないかと懸念している。
		衣料品販売店	客単価はあまり変わらないが、客数が伸びていない。
		農産物直売所	原油高による諸物価の高騰の影響が、今後大きく出てくるのではないかと懸念している。また、ハウス栽培の野菜価格が高騰することが予想され、売上げへの影響が懸念される。
		農産物直売所	物価の値上がりによる買い控えで、売上げは低下すると思う。
		洋食食堂	当店の近くにある銀行に移転話があり、ランチタイムの客数が大幅に減少しそうである。
		洋食食堂	若年層の客が増えていかないと、段々店の景気は落ちていく。当店の客層は高齢の方が多く、コース料理等も少なめの方を選ぶので、客単価はなかなか伸びない。
		旅行代理店	燃油料金が高くなっているためか、海外旅行の予約状況が悪化している。
		タクシー運転手	「無い袖は振れない」ため、消費も必要最低限に抑えられ、低調に推移するのではないかと懸念している。
		ゴルフ場	年末は一旦活気が出るが、年明け以降の3ヶ月間は、予約等の動きが遅い。
パチンコ店	先行きに良くなる要素が少ない。景気は下降する一方の気がする。		
悪くなっている	企業	製造業（食料品）	出席したどの会合でも、景気の良い話は聞こえてこない。
		製造業（窯業・土石製品）	原油の高騰に代表される資材の値上げ等により、仕入価格の上昇が見込まれるため、やや悪くなるのではないかと懸念している。
		不動産業	正社員を採用する会社が減少しているように思う。また、ガソリン代の値上げ等は消費者への影響が大きいのではないかと懸念している。
悪くなっている	家計	スーパー	各種商品の値上げはこの先も続くと予想されるため、景気は更に悪化すると思う。
		ガソリンスタンド	原油高騰はどこまで続くのか、全く先の見えない状況であることに加え、環境問題からバイオ燃料の普及に国も力を入れ始めている。この先、燃料販売業界には大きな変化があると予想されるが、ガソリンスタンドの先行きは厳しいと思う。
		旅行代理店	商品の価格競争に加え、燃料費も高騰しており、景気の回復は見込めないと思う。
		レジャー施設	遊覧船の予約状況から判断して、この先も悪くなると思う。
悪くなっている	企業	製造業（窯業・土石製品）	灯油やガソリンなど、身近な生活用品の値上がりは今後も続くと予想されるため、買い控え傾向も一層強まるのではないかと懸念している。
		製造業（非鉄金属）	来年1～3月の受注予想では、対前年比15%程度増加する予定だが、最近では直近の納品指示が減少していることから、予想を鵜呑みにできないところもある。また、中国や韓国といった国外企業との比較もあり、新規受注競争は以前より激化している。この先も厳しい状況が続くものと予想される。
		建設業	先行きの見通しが立たない。銀行の締め付けが厳しくなっている。
		建設業	年度末に淡い期待をしているものの、この先受注が増加するのは望み薄のように感じる。
悪くなっている	雇用	雇用相談員	これから、高止まりしている石油や灯油の本格的な需要期を迎えることになる。最近、スーパー等で買物をすると、急速な価格上昇を実感する。値上がり傾向は今後も続くと予想され、今後更に景気は悪化すると思われる。

(5) 県西地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	—	—	—
やや良	企業	製造業（食料品）	年末贈答品の市場は活性化しているの、明るい兆しは見える。
		不動産業	売買、賃貸とも客単価が増加傾向にある。
		サービス業（広告業）	年初からは、ある程度大きな仕事が入ってくることになっている。
変 わ ら な い	家計	スーパー	物価上昇は今後も続くと思われるが、所得は横這いと推測されるため、現状と変わらず、景気はやや悪いままなのではないか。
		スーパー	個人の消費がどう動くのか、特に中小企業に勤務する者の消費動向によって、この先の景気は大きく左右されると思う。だが、今のところ、その辺りがはっきり読めないのが実状である。
		コンビニエンスストア	買上げ点数は減少傾向であり、客単価の前年割れは続いている。今以上の大きな下落もないと思われるが、客の消費行動に変化が見られない限り、景気も現在と変わらないと思う。
		コンビニエンスストア	「食」という最も身近な消費に対して、客の「欲」が感じられない。コンビニエンスストアは便利だから利用しているという認識が強いようだ。しかし一方で、価格や品質によって、消費の場が著しく変化することもあり、食品小売の厳しさを感じる。
		自動車販売店	買い控えの現状は、今後も続くと思われる。
		農産物直売所	景気回復の気配が感じられない。
		和食食堂	プラスクーポンの発行等により、商店街が活性化し買物客が増加した。このクーポンは3月まで使用できるため、今と変わらず売上げが伸びると思う。
		和食レストラン、割烹	3ヶ月程度では大きく変わらないと思うが、人口に対しての飲食店の比率が高く、新しい店舗が出店すると客が流れて一人勝ちされてしまう。常に企業努力をしていないと、生き残れない状況である。
		タクシー運転手	本来なら活気が出るはずの年末でさえこの状況なのだから、この先上向くという展望は考えにくい。良くて「変わらない」、もしかすると「悪くなっている」かもしれない。工業団地への客からは、それほど景気が悪いという印象は受けませんが、買物客等の様子からは、家計に余裕がなく、今の状態が長引くようであれば、かなり苦しく厳しいことになるだろうという印象を受ける。
		ドライブイン	ガソリン価格が下がらない限り、景気は良くなっていかないと思う。
		ドライブイン	現在、客数や売上げは減少傾向だが、今後数ヶ月はこのまま横這いで推移すると思われる。
		ゴルフ場	予約状況は3ヶ月前と変わらない。
		ゴルフ場	オフシーズンのため、入場者数は減少するが、今騒がれている原油高の影響は少なそうなので、消費単価等は変わらないと思う。
		理・美容店	前年に比べ、マッサージなどのサイドメニューを注文する客が増加している。客の要望に応じて、年々サイドメニューを増やしていつている。固定客が安定しているため、この先3ヶ月も売上げ等に大きな影響はないと思う。
		住宅販売会社	景気の良い話は聞こえてこない。
		企業	企業
農業関係者	直売所では11～1月は売り物が少ない。3月になれば、寒さも和らぎ、人も出やすくなるので、客単価は上がるのではないかと。ただ、10～12月と1～3月の3ヶ月間で比較すると、大きな変動はないと思う。		
製造業（食料品）	当分の間、大きな変化はないように思う。		
製造業（電気機械器具）	来客の対応をしている時、今後について良い話を聞かない。		
運輸業（道路貨物運送業）	消費が伸び悩むと見込まれ、景気に大きな変化はないと思う。		
金融業	景気回復を刺激する材料がないため、販売や生産が伸長する見込みがない。		
雇用	雇用	人材派遣業	例年の仕事のサイクルどおり、年末～年度末は求人が好調に推移すると思う。
		学校就業関係者	自動車関連部品等の一部の企業だけが忙しく、他の企業は厳しいという話を聞いている。
		就職相談員	仕事はあると語る事業所が多いが、新入社員を教育・育成する余裕がないため、現状維持でいくしかないようだ。

(5) 県西地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	現在は原材料の値上げラッシュで、来年になれば生活用品全般の値上げラッシュが見込まれるため、消費は冷え込むと思われる。
		商店街代表者	諸物価の値上げや年金問題等、景気が良くなる条件が全くない。
		スーパー	しょうゆ、パン等の値上げが報道され、消費者は益々価格に敏感になり、無駄な商品を購入しなくなるだろう。また、ガソリン等の値上げが生活を圧迫し、消費は一層冷え込むのではないかと。
		和食食堂	光熱費や食材の値上がりが一層激しくなると、外食する人も減少すると思う。
		和食食堂	食材の仕入れ価格が、じりじりと値上がりしている。一方、客単価は伸びていないため、今後はやや悪くなるのではないかと。
		都市型ホテル	石油価格の高騰により、景気はやや悪くなるのではないかと。
		都市型ホテル	都心部は別として、地方では益々悪くなっていくのではないかと。
		旅行代理店	原油高に伴う物価高騰で、買い控える人が増加すると思う。
		タクシー運転手	サブプライム問題に端を発した国内株式市場の混乱や株価の下落、長引く原油高等が、今後の景気に悪影響を与えないか心配している。
		理容店	原油高騰の影響かもしれないが、利用客の来店サイクルが以前より長くなりつつある。
		クリーニング店	年金や物価高など、先行不安な話題ばかりなので、消費者は安いものや必要なものしか買わなくなるのではないかと。
		建築設計事務所	建築基準法改正による建築現場への影響は、この先も長引きそうである。
悪くなっている	企業	製造業（印刷・同関連業）	当社も売上げが伸びないどころか減少しており、一方で固定費は変わらず、悪戦苦闘している。何とか前向きに考え、健全経営できるように頑張りたい。
		製造業（印刷・同関連業）	つくばエクスプレス守谷駅の周辺では、マンションがどんどん建設されている。しかし、駅から7～8km離れたところでは、商店主も小企業者も現状を維持するのが精一杯で、先行きに対する不安感に打ち満ちている。つくばエクスプレス沿線は首都圏経済の範疇なのか、駅周辺の動きは、それ以外の地域とは際立った違いが見られる。
		製造業（化学工業）	例年1～3月は、売上げが5～10%程度落ち込む。来年特に、景気が良くなる要素も見当たらないので、現在よりやや悪くなると思う。
		製造業（金属製品）	年度末に向かい、本年度の仕事量は概ね消化してくると思われる。また、取引先数社では、売上げ・利益を下方修正する見通しとなりそう。引き合いの先送り、発注時期の遅延もある。柏崎刈羽原子力発電所の事故を受け、電力会社を顧客に持つ配電機器メーカー等は、大きな影響を受けており、当社にもその影響は及んでいる。
		建設業	原油高騰に伴い、様々な製品が少しずつ値上がりしているが、建設工事の受注金額には、なかなか反映されない。また、工事量そのものが少ないため、競争が激しく、受注金額が低く抑えられてしまう。
		サービス業（コンサルタント業）	原油価格の高騰による影響が大きく、この先の景気はやや悪くなるのではないかと。
悪くなっている	雇用	求人広告	コスト高が影響し、企業収益はこの先一層圧迫されると思う。
		公共職業安定所	特に、製造業の求人が減少している。また、家計を支えるためにパートタイムの職を求める人が増加しており、景気はやや悪くなっていると感じる。
悪くなっている	家計	衣料品販売店	好転する材料が見当たらない。
		家電販売店	今年の年末は非常に落ち込んでいる。これが、来期にすぐ改善するとは思えない。この短期間での落ち込みは非常に厳しいと思う。
		タクシー運転手	3ヶ月前（年末年始の繁忙期）と比較すると、客数減は否めないため、景気は悪化すると思う。
		タクシー運転手	先行き明るい話題が何もない。
		パチンコ店	パチンコ業界全体が、客数の減少→新機種開発へのメーカー努力→遊技機単価の上昇→償却負担を客へ転嫁→客数の減少…という負のスパイラルに嵌っているため、これからは低玉貸営業を行う店舗が増加するのではないかと予測している。同質化競争からの差別化を図るうえで、有用なのは遊技機の品揃えであり、新機種を揃えた低玉貸営業の店舗が現れると、周辺店舗の売上げは下がる。客を取り返そうとして、周辺店舗が新機種を購入しても、その購入経費は結局のところ客の負担となり、客離れに繋がる。こうして、強いメーカーと強い店舗だけが、この厳しい時代を生き抜いていくのではないだろうか。
		ゲームセンター	良くなる要因が見つからないし、現状を維持できるという確証もない。
		レジャー施設	生活に関わる商品が値上がりしているため、消費者の不安が益々高まるのではないかと。
悪くなっている	企業	製造業（窯業・土石製品）	今までの様子から鑑みて、この先景気が好転する材料が見当たらない。
		製造業（窯業・土石製品）	良く成りつつあった景気に、原油高が水を差すと思う。当社でも、原材料高・製品安で利益がでない。製造業界においては、益々この傾向が強くなると思う。



### Ⅲ 景気の判断理由 — 3 その他の意見

#### (1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見	
家 計 関 連	商店街代表者	2年前に中心市街地に出店した大型店に元気がなく、色んな噂が出ている。それだけ、中心市街地に人が集まらなくなってきているということなのかもしれない。	
	スーパー	居酒屋の人の話では、忘年会の費用も減少しているようで、パック料金でも厳しい状況らしい。	
	コンビニエンスストア	ボーナス支給額も軒並み下落しており、明るい話題はない。	
	コンビニエンスストア	物価の高騰と昨今の鮮度偽装などにより、コンビニエンスストアでのクリスマスケーキの予約は、近年を上回る勢いがある。正月のおせち料理についても同様の傾向が見られる。	
	衣料品販売店	衣料品に限ることかもしれないが、高額品の動きが鈍くなっているようだ。	
	衣料品販売店	ガソリン代の値上げにより、通勤費が高んでいるため、通勤手当等のアップを希望する声が多い。	
	農産物直売所	野菜等の地場農産物の売上げは伸びているが、それ以外の土産物は売上げが落ちている。	
	小売業（酒類）	地元の中小企業では従業員の給料が上がらない。ボーナス支給がないところも多かったようだ。	
	小売業（靴製品）	チラシを配布しても効果がないので、最近はチラシの作成も行っていない。来店客の様子を見ていると、良質の商品を購入する人と、安価な商品を購入する人に分かれている気がする。	
	レストラン	日立市の景気は、地元大企業の業況に大きく左右される。同じ県内でも、県南地区は活気があるようだが、北へ行く程、活気がなくなるようで寂しい。	
	観光型ホテル	いろんなものが値上がりしており、皆自衛策に苦慮しているようだ。	
	観光型ホテル	原油高騰の煽りを受け、各種商品の仕入値の値上げ改正が相次いだ。	
	観光型ホテル	「宿泊施設の酒類は高いので、持込をしてもよいか？」という問合せが最近増えている。ビールの値上げ報道等により、利用者の関心が高まっているようだ。	
	旅行代理店	東京地区では、客単価アップが見えてきたとの話を聞くが、県内、特に県北地区では変化の兆しは見えない。	
	企 業 関 連	タクシー運転手	新規従業員の採用数が、今までに比べると増加傾向にあると思う。
		タクシー運転手	当社の売上げは、地元企業がどれだけタクシーを利用するか、にかかっているのが実情である。ここ数年、地元企業の利用に目立った動きはなく、現状ではタクシーを大きく使ってもらえる状況ではないようだ。
ドライブイン		食品、オモチャ等、あらゆる商品で、中国製品に対する不信感が消費者に浸透している。かつての人気商品も、中国産というだけで客は手を伸ばさなくなっている。	
ゴルフ場		清算時の単価の違いから、都市部と地元の利用者との間には、利用料の捉え方に大きな幅があることが伺える。また、道路交通法の改正に伴い、飲食関係の支出、特にアルコール分の動きに大きな変化が出ている。	
美容室		日立市内商店街の閉店後跡地にマンションが多数建設されている。購入者は郊外団地に居住していた高齢者が多いようで、今後街の形態も変わりそうだ。	
クリーニング店		金曜日の夜、ガソリンスタンド（特にセルフ）に行列ができているのを最近よく目にする。土・日に遠方へ行く人が、ガソリン価格の安い地元スタンドで満タンまで給油するためらしい。	
林業関係者		車にガソリンを入れて1万円札を出しても、以前より釣り銭が少なく感じる。これでは遠方へ出かけようという気にならない。また、経費の比較的にかからない軽車両への乗り換えが多く見られる等、消費者の財布のヒモが固くなっているように感じる。このままでは景気は一層悪くなると思う。	
水産業関係者	旅行業者が、北茨城市内を観光バスで巡るツアープランを企画したところ、既に年明けの予約が多数入っているらしい。市内観光地の期待は大きいですが、客商売のため不安要素も多数ある。しかし、これからは地産地消の観点からも、観光は地域経済とは切り離せない重要な産業となるのではないかと。		
製造業（食料品）	灯油、重油、ガソリン等の価格が上がり続けており、この先どうなるか予測が難しい。加えて、次年度は原料高も見込まれ、頭が痛い。		
製造業（電気機械器具）	ステンレスの価格高騰が一段落した。と思ったら今後は、工場の暖房用灯油の値上がりや、取引先への製品搬送用トラックの運賃値上げ要請等々…企業の努力で対応出来るものと、出来ないものがあることを痛感させられる。		

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関 連	製造業（電気機械器具）	建設業では仕事がなく、かなり大変そうだという話を聞いた。
	製造業（電気機械器具）	材料費の値上がりに落ち着きがなく、業績を圧迫している。しかし一方で、圧延機関係の輸出案件には勢いを感じる。
	製造業（輸送用機械器具）	税金や保険料等の個人負担増に加え、原油等の値上がりにより、一般消費者の負担は更に拡大傾向にあり、消費意欲が大きく低下することが懸念される。
	金融業	日立市内では、数棟のマンション建設が進んでいる。
	不動産業	駅前の百貨店がファンド系に売却される、という話を聞くが、ファンドへの売却が今後の土地運用上最善の選択なのか不透明な部分があり、地域商店街の活力低下に繋がる懸念を感じる。
雇用 関 連	人材派遣業	景気が良くなってきているという割には、賞与等はあまり変化がないという話をよく聞く。
	求人広告	忘年会シーズンではあるが、回数が減った。
	学校就業関係者	夜10時以降に、コンビニエンスストアやスーパーマーケットで買い物をする人が、以前より減ってきているように思う。
	求人開拓員	家電部品下請け事業所の作業員募集を紹介し、採用されたがすぐ辞めてしまった人がいた。仕事を辞めても生活に困らないのだから、景気はそれほど悪くないのかと思ってしまう。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	年末のこの時期は、カレンダーなどを配布してくれる取引先が多いが、ここ数年はだいぶ減ってきている。
	商店街代表者	イルミネーションを昨年よりグレードアップして、商店街を綺麗に装飾した。夜の街が明るくなったので、多くの人に来てくれると良いと思う。
	百貨店、総合スーパー	食料品に関して、産地や加工地を確認する客が増加している。
	百貨店、総合スーパー	生活を守る世代の動きは厳しい。
	スーパー	相次ぐ値上げにより、生活はますます厳しくなっている。
	コンビニエンスストア	余計なものを買わない、必要最低限の商品だけ購入する人が多いため、客単価が落ち込んでいる。
	家電販売店	消耗品や食品の値上がりがいよいよ深刻になってきた。無駄使いや衝動買いが無くなり、市場は冷え込んでくるだろう。しかし、このことにより、紛い物や偽物は通用しなくなり、本物だけが生き残る。企業の真価がいよいよ問われるのではないかと。
	農産物直売所	最近、レジに千円札が溜まる傾向がある。1万円札を持ち歩く人が少なくなっているのかもしれない。
	専門スーパー	住民税が増額となり、6月分の給与から手取りが少なくなった。冬のボーナスも、手取りの減少を痛感する。そのうえ、ガソリンや灯油、食品の値上げとくれば、景気が良くなる訳がないと思う。
	専門スーパー	節約ムードが高まっている。自転車、電動工具、ストーブ等の修理依頼の持ち込みが多い。ストーブやファンヒーターの使用も、朝・晩だけに限定し、灯油を節約しているようである。
	レストラン	ガソリンやその他の商品価格が値上がりしている分、どこかで消費を切り詰めなければならず、外食の回数を減らしたりして対処している、という話を聞く。
	ファミリーレストラン	当店の立地条件は、あまり良くないと思っていたのだが、最近周辺に新しい飲食店やカラオケ店等が開店しているので、これからは活気が出てくるのではと期待している。
	割烹料理店	地方の商店街や商工会に属する個人商店は次々と閉鎖しているが、一方で大手マーケットは続々と地方に進出している。これは、農家を継ぐ若者が少なくなり、田畑を手放す農家が多くなっているからではないか。
	旅行代理店	贈答用の旅行券や食事券の売上げが順調である。
	タクシー運転手	最近では、タクシーよりも代行を利用する客の方が多いような気がする。
	タクシー運転手	街が静かで活気がない。人々は、できるだけ動かないようにしようと心がけているのではないかと。
	ドライブイン	テレビや新聞報道等により、原油高に伴い各種商品が値上がりしていることは消費者も承知しているが、安易な値上げでは納得してくれない。どのように商品値上げを納得してもらえばいいか、良いアイデアが思い浮かばず苦慮している。
	ゴルフ場	予約では満員にもかかわらず、当日に空きが多く見られる。
	ゲームセンター	人気や流行の流れが速く、投資率と利益率が相殺してしまい、収益が減少している。
	レジャー施設	今年の特徴的な傾向として、入場者が減少している割には、土産物の売れ行きが好調である。これからの時期はイルミネーションがとても美しいので、クリスマスの夜間営業や年末年始などの誘客につなげていきたい。
建築設計事務所	ガソリンを始め、これまでも色々な生活必需品が値上がりしているが、値上げラッシュはこれからが本番だと思う。	
企業 関 連	製造業（印刷・同関連業）	原油高に端を発した原材料費の値上げの影響が大きい。来春も更に値上げの話が来ており、企業努力の限界を超える見通しである。業界の淘汰は既に始まっており、ここは我慢比べだと思う。受注が上向いても利幅が少ないため、企業の組織も再構築を迫られる状況下にある。
	製造業（窯業・土石製品）	これまで中国産の安価な石材が主流だったが、少しずつ国産材が見直されてきているような気がする。
	製造業（金属製品）	相変わらず、地場ゼネコンの倒産が続いており、リスク管理に苦慮している。
	製造業（一般機械器具）	ガソリン代として通勤手当を払っているが、今のところガソリンの値上げに伴う増額はしていない。このまま値上げが続けば、増額も検討せざるを得ないので、頭が痛い。また、最近では、タクシーが深夜まで営業をやらなくなったようだ。燃料価格の値上げに加えて、利用客が減少しているためらしい。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	製造業(精密機械器具)	当社のホームページへのアクセス件数は、対前年度比で33%アップしており、依然として好調に推移している。ただ、今後アクセス件数もどうなるか気になるところである。
	運輸業(道路貨物運送業)	燃料高に伴い、単価の安い店やセルフのガソリンスタンドに車が多く入っている。
	情報通信業(情報サービス業)	顧客の話には、マスコミ報道から収集した情報が結構含まれているようだ。以前に比べれば、企業や消費者は、マスコミ報道に対して、かなり冷静に判断するようになってきた。しかし、報道によってマインドや行動が左右されることは古今変わらないように思う。悲観的要素を生み出す報道ではなく、もう少し前向きな報道を増やしてほしい。心理面からの景気浮揚も一策ではないか。
	金融業	水戸駅周辺において、数棟のマンション建設が進んでいるが、市場には飽和感が出てきているようだ。年末のため、市内幹線道路の渋滞が目立ってきており、若干ヒト・モノの動きが活発化しているように感じる。
雇用 関連	人材派遣業	直接雇用・採用の動きは顕著である。派遣業界でいえば、紹介予定派遣(社員を求めている企業で、まず派遣スタッフとして働き、派遣期間の終了時に双方の合意があれば、社員として採用する仕組み)が増加している。これと連動するように、紹介予定派遣を希望する登録スタッフも増えている。このことから、採用枠の拡大傾向が見て取れるが、「採用が増えた」＝「景気が良くなった」に直結するわけではない。ただ、限界ぎりぎりのところからやっと抜け出せた程度かもしれないが、厳しかった雇用状況が、氷解し始めているのは間違いないだろう。
	求人広告	主に、飲食店の売上がかなり下がっているようだ。
	公共職業安定所	平成20年3月卒の高校生用求人、11月末現在1,419名分で、昨年同月比3.0%増加している。求人倍率は1.31倍で、就職内定率は74.1%(因みに昨年は66.9%)となっており、団塊世代の大量退職を見越した企業の採用増傾向が伺える。また、12月にロックシティ守谷内にオープンする飲食店からパートのホール・キッチンスタッフ40名、水戸税務署より確定申告のための期間限定パート事務補助員79名の求人を受理している。
	学校就業関係者	旧ダイエー水戸店が撤退した後、空いていたビルの一部に、最近スーパーなどの店舗が入り、周辺の人通りが少し回復してきたように思われる。同じく、水戸駅前市街地の旧ユニー跡ビルが撤去されたが、その後の再開発次第では、郊外に流れていた買い物客の一部が戻ってくるのではないかと期待している。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連 企 業 関 連	商店街代表者	安価なセルフサービスのガソリンスタンドが増加したことにより、給油を従業員が行なう従来型のフルサービススタンドの廃業が増加傾向にある。以前なら、給油と同時に車の調子なども点検してもらえたものだが、消費者の懐具合の寒さが、このような取捨選択の結果を招いたのだろう。
	商店街代表者	経営者の高齢化に伴い、経営意欲の低下や後継者不足など課題が山積しており、商店街で会合を持っても明るい話題はない。
	スーパー	ガソリン代が値上がりし、食品も値上がりする旨の報道が多いため、とにかく安く、そして日持ちのする商品が良く売れている。このような商品が品切れするとクレームが大きくなる。衣料品でも食料品でも、消費者の目は価格に対して厳しくなっていると痛感する。
	コンビニエンスストア	原油の高騰を始め、物価上昇の影響が生活にじわじわと出てきており、人が集まっても話題は暗いものばかり、社会全体に閉塞感が漂っているようだ。
	家電販売店	原油価格の高騰による関連商品の価格上昇が目立つ。通常の年末よりも「お買い得品」が少なく感じる。
	自動車販売店	セルフのガソリンスタンドが増えた一方、従業員が給油してくれるスタンドは減ったと思う。また、規模の大きな店舗が増え、小規模店舗は減ったように感じる。
	小売業（菓子販売店）	旧商店街の集客力低下が目立つ。
	衣料品販売店	公共交通機関が乏しい地域なので、自家用車は生活に必須である。どんなにガソリンが値上がりが続けても、休日前のガソリンスタンドは混雑している。その分、飲食店や衣料品販売店などに、家計を切り詰めるツケが来るのではないかと不安になる。
	洋食食堂	9月の道路交通法改正以来、飲酒する客が減少傾向にある。飲酒運転は厳禁だが、地方にはまだ意識の低いドライバーがいるのも確かである。自動車運転代行も含めた飲食に関する新しいサービスの提供や仕組みづくりができないものか、と考えている。
	日本料理店	会社名での忘年会予約が少なくなり、個人名での予約が増えた。
	タクシー運転手	給料（収入）が上がらないのに、ガソリンの高騰、生活用品の値上げなどで、人々の考え方が消極的になっているように思う。タクシー利用についても、料金値上げ等があるため、従来以上に神経質になっているようだ。お店の様子を見ても、新規出店よりも、廃業する店舗の方が多く思う。
	タクシー運転手	ある乗客は、ガソリン等の物価高に対応するため、無駄を省いて生活を切り詰める、と話していた。
	観光名所	石油の値上がりから始まり、あらゆる生活用品の価格が上がっている。このような中、消費者向けには何の対策もない。負担は全て末端の国民が背負うという構造は、他の国でも同様ののだろうか。
	ゴルフ場	飲酒運転厳罰化の時勢的に止むを得ないが、レストランの売上げ、特にアルコールの売上げが減少している。
	パチンコ店	ガソリン代金の値上がりに伴い、「車の使用を控えたい」という客の声をよく聞くようになったが、話題に出る割には、その影響はまだ出ていないと感じる。
	理容店	原油が高騰し、身の回りの物価も上がりつつある。
	クリーニング店	近くのカーテン縫製業は、例年であれば、年末は残業で忙しいはずなのに、今年は受注が少ないらしい。また、苺農家では、暖冬のせいかもしれないが、最需要期の暮れにもかかわらず、商品価格が上がらないと話していた。別の農家では、資材価格が上がっているのに、商品を高く買ってくれないとこぼしていた。今年は、歳暮の数も単価も減らした人が多いようだ。
	住宅販売会社	景気回復を実感している層が少ない。
	住宅販売会社	所得税の定率減税廃止、原油高に伴うガソリンや灯油価格の上昇、最近立て続けの生活必需品の価格上昇等により、生活に直接影響が出ている。苦肉の策として、生活費を切り詰める家庭が多いようだ。
企 業 関 連	農業関係者	資材費・燃料費の負担が大きく、困っている。
	製造業（食料品）	大型店やチェーン店が増えている一方、地元の商店街は閉店するところが増えているように見える。
	製造業（飼料）	穀物相場は未だ低下する兆しが見えず、更に上がる気配さえある。また、原油も高止まっており、徐々にこの影響がでてくると思われる。
	製造業（化学工業）	身近な食品類も、少しずつ値上げが多くなってきたことが気になる。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	製造業（化学工業）	どちらを向いても、原油高騰に絡む話題しか聞こえてこない。
	建設業	旧大野村には、移住者・永住者が多く、新築着工件数も多かったが、市街化調整区域の指定を行う計画があるので、建設業関係はこの先景気が悪くなるかもしれない。業者の倒産等を防ぐためにも、この線引計画をできれば5～10年位先延ばしにしてほしい。
	運輸業（道路貨物運送業）	社内の自動販売機（缶コーヒーのみ）の値段が安くなっている。各メーカーが価格競争した結果、値段を下げたようだ。
	運輸業（道路貨物運送業）	軽油の値上がり分が売値に反映されず、経営を圧迫している。単価については、現在も継続交渉中である。
	金融業	子供に掛ける費用（教育費、物品購入費、遊興費）に関しては、支出を惜しまない傾向があると思う。また、住宅を建築する施主の年齢が若年化しているようにも思う。
	保険業	今年は年末でも道路工事が少ないような気がする。周辺で見受けられる工事も、改良工事程度のため金額は小さいものと推測される。現在、茨城県の借金は1兆7千億円、行方市の借金は300億円あり、返済までにはまだまだ時間がかかるだろう。こんな不景気な年の瀬だからこそ、余計にクリスマスイルミネーションが輝いて見える。
	不動産業	最近、近くにホームセンターがオープンした。客入りは上々で、広い駐車場を埋め尽くす程の人出だった。このような光景を見ていると、この地域ではまだ買い控えの傾向はないように思う。
	サービス業	中国産鉄鋼価格が上昇し、輸入を控える動きがあるらしい。
雇用 関連	民間職業紹介業	職業紹介業及び人材派遣業においては、求職者や登録スタッフの確保が最大の課題となっており、業界全体において人材不足の感が拭えない。
	公共職業安定所	原油等資源価格高騰の影響については、受注が順調なため収益への影響はほとんどないとする企業もあるが、収益をやや圧迫しているため、商品・サービスへの価格転嫁対応を行う企業も出ている。
	求人開拓員	中小企業の経営者は、原油価格が下がらないことには対応のしようがないと話していた。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 係	スーパー	今後値上げが予想される小麦粉やサラダ油等をまとめ買いする人が多くなっている。
	スーパー	駅前通りや商店街通りで、閉店した店舗が何店かあった。
	スーパー	マスコミが連日のように値上げに関する報道をしているためか、小麦粉や食用油のような日用品を日替りで安く提供すると、以前よりも売れ行きが良い。
	衣料品販売店	最近の客は、直近になり、本当に必要に迫られないと購買意欲がわかないようだ。早い段階での購入はあまりない。一方、年配の方は値段に捕らわれずに購入しているように思う。
	家電販売店	ボーナス支給により、液晶テレビへの買い換えが好調である。
	農産物直売所	当店は道路事情が良いため、商圏が広く遠方よりの客も多いのだが、原油高の影響により、最近は遠方客の来店回数が少なくなってきた。
	ガソリンスタンド	物流部門の運送会社では、燃料の高騰により経費が増加しているため、荷主に運賃の値上げを頼んでいるが、なかなか上げて貰えず苦しい状況らしい。
	洋食食堂	次々とマンションが出来てきているが、入居状況はすこぶる悪いらしい。
	洋食食堂	先日、当店の税務調査が入った。当店で、景気が落ち込み、借り入れをしたり、預金を取り崩して何とか回している状態であるにも関わらず、売上げがないことをなかなか認めてもらえず、とにかくしつこく調べられた。税務署の人達は、世の中の景気の悪さをわかっていないのだろうか。守谷市にある複合商業施設が、1年も経たずにシャッターが閉まっている。開発は続くらしいが、大型商業施設の乱立で、目新しさがなくなっているのかもしれない。
	寿司店	近所で開店が相次いでいるが、1つ開店すると近くの店が閉店し、それを繰り返すうちに似たような商店街が出来て、かつての商店街は活気を失っていく。客を取り合って綱引きをしているようだ。取る方も取られる方も、店を維持するのは大変だ。
	都市型ホテル	ショッピングセンターを含め、周辺では店舗が増加している。消費者にとっては、選択の幅が広くなり良い傾向かもしれないが、経営者側からすると、既に飽和状態で、勝ち組や差別化した店舗しか生き残れない苦しい状態である。このエリアでは、このような状態が暫く続きそうである。
	旅行代理店	ガソリンの高騰に加え、年明けからは、電気・ガス料金の値上げが控えており、景気回復の要素が全くない。政府には、暫定的でもいいから、ガソリン税等の減税を望みたい。
	タクシー運転手	総じて客足は遠のき、多少のイベントやアクションでは客は動かないと思う。
	ゴルフ場	土・日の割高料金にもかかわらず、予約状況や来場者数は平日と大きな差はない。
	ゲームセンター	家庭用ゲーム機器が普及したためか、子供達が外で遊ぶ姿をあまり見かけなくなった気がする。
	レジャー施設	飲食には支出を惜しまないが、レジャーには金を出し渋る傾向があるようだ。かつての『私を〇〇に連れてって』のマリンスポーツ版のようなブームを期待したいところである。
	美容室	12/1～3/31期間限定の地域通貨キララが好評で、土浦駅周辺商店街の賑わいに大いに貢献している。2008年10月にはイオン土浦ショッピングセンターがオープンすることが決定した。商店街が意識改革に真剣に取り組まなければならない時が目前に迫っている。活性化に繋げるべく努力が必要だと思う。
	建築設計事務所	このところ、耐震診断関係の業務は忙しいようだ。
	住宅販売会社	住宅購入に対して慎重な客が増えてきたように思う。
企 業 関 連	農業関係者	近くの商店街や食堂、ホテル等では、例年どおりの賑わいを見せているようだが、今ひとつ元気がないように感じる。民間では、ボーナスの支給額も公務員ほど良かった訳ではない。
	製造業（食料品）	つくばエクスプレスの研究学園駅前は建設ラッシュである。一見好景気に見えるが、地主以外の地元住民は、収入が増える訳でもなく、前年と比べて何も変わらない。
	製造業（飲料）	離職者が減少しているようだ。
	製造業（印刷・同関連業）	同業他社が倒産した。
	製造業（窯業・土石製品）	物価の上昇や、建築基準法改正に伴う着工の遅れに対する政府の対応に誠意が感じられない。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	製造業(非鉄金属)	競争原理, グローバル化を政府が推進した結果, メーカーの収益至上主義から, 弱小企業は切り捨てられ, 日本の「ものづくり技術」は海外へ流出しつつある。国も県も現状を直視し, 軌道修正を図るべきだと思う。特に, 原油高に伴うコスト上昇が一段と強まる中, 大手企業に対してコスト転嫁を国の政策として指導してほしい。それが無理ならせめて, 製品の値下げ要請を禁止するくらいの指導を期待したい。
	建設業	後継者の育成に頭を抱えている同業者が多い。跡継ぎ息子が他業種へ転職した会社, プロパーの社員に社長希望者を募るも誰も手を挙げず困っている会社, 数年後には社長を譲ることになっていた専務がガンで死亡した会社など, 様々な理由で後継者不足に頭を悩ませている。
	建設業	年金問題, 環境問題, 格差問題など, 年々, 弱者には厳しい社会になっているように思う。これから先, 特に若い人達にとっては大変な時代になるだろう。また, 景気の悪化と共に, 犯罪が増加しているような気がする。もっと住みよい国になってほしいと切望している。
	建設業(設備工事業)	極端に低い予算で店舗建設を依頼してきた人がいた。仕事が減っているのに, 安価でも請ける業者がいると見越した動きなのだろうか。消費者物価は上昇傾向だが, メーカーの販売価格は据え置きのままか下降傾向になるのだろうか。経営は苦しくなる一方で, 企業倒産は更に増えるのではないか。
	金融業	所得格差が感じられる。安い商品ばかり売れるわけではなく, 付加価値があれば, 高い商品でも売れている。
雇用 関連	求人広告	市内を巡回していると, 新店舗の増加傾向が伺える一方で, 以前賑わっていた店が閉店しているの目につく。年末という時期的な要因もあると思うが, 大手スーパーや書店, ドラッグストア等の出店が多いようだ。
	公共職業安定所	企業の採用担当と話していると, 採用が難しいという話が多い。特に, 中小企業では採用に苦慮しているようだ。
	学校就業関係者	少子化のためかもしれないが, 公立の技術専門学校である当校においては, 例年になく定員割れを起こしている科が多い。追加募集で高等学校を訪問しても, 就職希望者が多く, そのほとんどが既に就職が決定しているという回答が多い。進路未定者はほとんどいない状況である。また, 当校の場合, 推薦試験に落ちても一般入試受験の機会があるにもかかわらず, 推薦試験不合格者が一般受験をせず, 私立の専門学校へ入学するケースが多いようだ。公立に拘らず私立へ進学できるのは, 家庭にある程度ゆとりがあるということなのだろう。
	雇用相談員	以前は, セルフ型の価格が安いガソリンスタンドには, 給油待ちの車を良く見かけたが, 今はほとんど見かけることがなくなった。給油量や金額を指定して給油する等, 一人一人の自己防衛意識が高くなったことを実感する。



(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 開 連	商店街代表者	中心商店街のショッピングセンターが閉店し、街中に人通りはますます少なくなっている。
	商店街代表者	当店では、惣菜や弁当を製造・販売しているが、食材等の値上げが利益を圧迫し始めており、来年から商品の値上げを考えている。
	スーパー	プライベートブランドで値下げした商品の動きが好調である。
	スーパー	原油の高騰により、あらゆる物資の価格が高騰している。
	スーパー	ガソリン値上げの影響なのか、小型で燃費の良い車が良く売れている、という話を良く耳にする。
	衣料品販売店	最近では、利用金額が千円以下の場合でもクレジットカードを利用する人が多い。ポイント数を稼ぐために、少額でもカードを積極的に使用しているようだ。
	農産物直売所	ガソリンを始め、生活用品が値上げされる一方で、所得は増えていないため、先行きの不安感が消費を抑えているようだ。
	ガソリンスタンド	燃料価格が上がり続けている。過去最高値をどんどん更新しているが、どこまで上がるのか心配している。
	和食食堂	大型スーパーが閉店したかと思えば、別な店舗がオープンしたり、街が次々と変化しているので、今後良い方向に向いてくれれば良いと思う。
	和食食堂	個人商店が減少しており、このままでは「商店街」という名称自体が消えてしまうのではないかと危惧している。
	和食レストラン、割烹	景気自体は悪くないと思うが、周辺に大型店が出来ると客が流れてしまう。一層の企業努力が必要だと思う。
	都市型ホテル	道路を走っていても、普通車より軽自動車の方が目立つように感じる。燃費の良い車へ乗り換えが進んでいるようだ。ホテルの宿泊者も、電車利用の方が多くなっている。
	ゴルフ場	株価下落に伴い、会員権販売についても勢いが低下している。
	パチンコ店	今に始まったことではないが、情報化社会となつてから、グレーな部分というのが少なくなり、あらゆるものが表面化した。そのことで、「情報・知識は力」となった反面、「無知は損をする」時代になった。皆もそのことに気付き、不安感が肥大しているように感じる。皮肉なことだが、自分自身も安定した生活を送るために、行動力を低下させ、無駄な支出は避けるようにしている。
	レジャー施設	灯油に止まらず、食料品の仕入価格も値上がりしており、企業努力にも限界がきている。
	理・美容店	周辺の工場などでは、規模を縮小した所や、ボーナスが減額された所もあったようだ。
クリーニング店	一部上場企業の技術系職員が退職しようとしたら、給料を2倍にするから辞めないでくれと引き留められたらしい。結局辞めて、別の会社へ転職したそうだが、我々からすると「へー！」という感じである。	
企 業 開 連	農業関係者	ここに来て、ガソリン、灯油等の値上がりりが深刻化している。食料品等の買い控え傾向が客の様子から伺える。
	製造業（食料品）	ガソリン価格の上昇がどこまで続くかわからないので、マイカー通勤者の通勤手当を見直す必要がある。
	製造業（食料品）	年末にもかかわらず、道路を走行するトラックの台数が少ないような気がする。
	製造業（印刷・同関連業）	仕事で得意先を廻っても、友人同士で酒を酌み交わしながらの会話でも、したくないが暗い話ばかりで面白くない。「明るく、楽しく、朗らかに」生きていきたいものだが、そんな世情ではない。各人各々努力はしているのに、努力が足りないのか、世の中の変化が激しすぎてついていけないのか、出るのはグチばかりである。こんな中、珍しく明るい話題を見つけた。かつて、2～3万円は当たり前、祭日や日曜はそれ以上していた近所のゴルフ場が、昼食付きで、曜日に関係なく使用できる回数券（@3,000円）を発行し、連日満員御礼が続いている。今が変わらないと先々を良くすることはできない、何とか前向きに考えて頑張るのみだ。
	製造業（印刷・同関連業）	つくばエクスプレスの開業によって、銀座や大手町へ45分で行けるようになったが、期待していた程には、その波及効果が広がっていない。
	製造業（窯業・土石製品）	燃料費の高騰などが一般的にも騒がれており、買い控えの傾向が伺える。必要ないものは出来るだけ買わない、という節約ムードが消費者に蔓延しているようだ。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	製造業（窯業・土石製品）	国の動向に影響を与える選挙だが、投票率は50%を切っている。これは、政治への関心が低いのではなく、現状にある程度満足しているからなのではないか。本当に、この社会に不満を抱き、生活に窮しているのであれば、まず政治を変えるために投票へ足を運ぶはずである。日本は、他の国に比べて、まだまだ景気は悪くないと思う。
	製造業（一般機械器具）	得意先からコストダウンの要請があり、値引きするまで何回でも電話がある。相手の粘りに仕方なく応じてしまうことが多い。
	建設業	県の行財政改革に伴う出先機関の組織再編により、2009年度から土木事務所や土地改良事務所等が統廃合されることになった。これによって、ますます県発注工事が減少するのではないかと不安である。
	金融業	11月に、近隣の大規模小売店が増床工事に着工した。地元の小売店では、今以上の客離れを懸念して、更なる危機感を募らせている。
	不動産業	客争奪のため、銀行ではローン金利の値下げ合戦となっている。
	サービス業（広告業）	大きな会社では、売上げを伸ばすために、大きな予算を使い色んな事をやるが、中小の企業には迷いがある。そのため、広告の発注も従来より小さく、細かくなっている。
	サービス業（コンサルタント業）	中小零細企業の賞与支給額は、ほぼ前年並みと報道されていたが、世間では景気回復といわれる中、中小零細企業では、回復どころか悪化していると感じる。
雇用 関連	人材派遣業	派遣単価を25年前から据え置きでやっているもので、経営がかなり苦しい。
	公共職業安定所	中小企業においては、原油高により、一層の経費削減を行っているようだ。
	学校就業関係者	多量生産用金型については、簡単なものは外国に、難しいものは国内でと区分して発注しているが、このことにより、生産技術が国外へ流出し、国内の技術者・技能者が不足する事態となっている。